



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成16年9月調査分)

景気の現状判断DI

	平成16年6月	平成16年9月	前回調査比
茨城県	50.3	49.9	-0.4
県北地域	48.7	50.4	+1.7
県央地域	52.2	47.7	-4.5
鹿行地域	50.9	52.2	+1.3
県南地域	53.9	50.0	-3.9
県西地域	45.5	49.1	+3.6

景気の先行き判断DI

	平成16年6月	平成16年9月	前回調査比
茨城県	53.5	52.0	-1.5
県北地域	50.0	53.4	+3.4
県央地域	55.8	51.4	-4.4
鹿行地域	50.5	51.8	+1.3
県南地域	56.1	51.8	-4.3
県西地域	54.9	51.4	-3.5

平成16年10月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.htm>

目 次

調査の概要	2
調査結果の概要	4
1 全県の動向	4
(1) 景気の現状判断D I	4
(2) 景気の先行き判断D I	5
2 地域別の動向	6
(1) 景気の現状判断D I	6
(2) 景気の先行き判断D I	8
3 回答率	11
景気の判断理由	12
1 景気の現状判断理由	12
2 景気の先行き判断理由	18
3 その他の意見	24

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、那珂郡、久慈郡、多賀郡
県央地域	水戸市、笠間市、東茨城郡、西茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、鹿島郡、行方郡
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷郡、新治郡、筑波郡、北相馬郡
県西地域	古河市、下館市、結城市、下妻市、水海道市、岩井市、真壁郡、結城郡、猿島郡

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体系数】

業種名	具	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等		38	39	39	37	36	189
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業		17	16	16	18	19	86
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等		5	5	5	5	5	25
	計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成16年9月調査の調査期間は平成16年9月9日から30日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、
 $(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5$ となる。

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは、「良くなっている」「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「悪くなっている」の回答構成比が増加したため、0.4ポイント減の49.9となり、横這いを表す50を下回った。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIが6月調査分を上回ったが、家計動向関連DIが6月調査分を下回った。

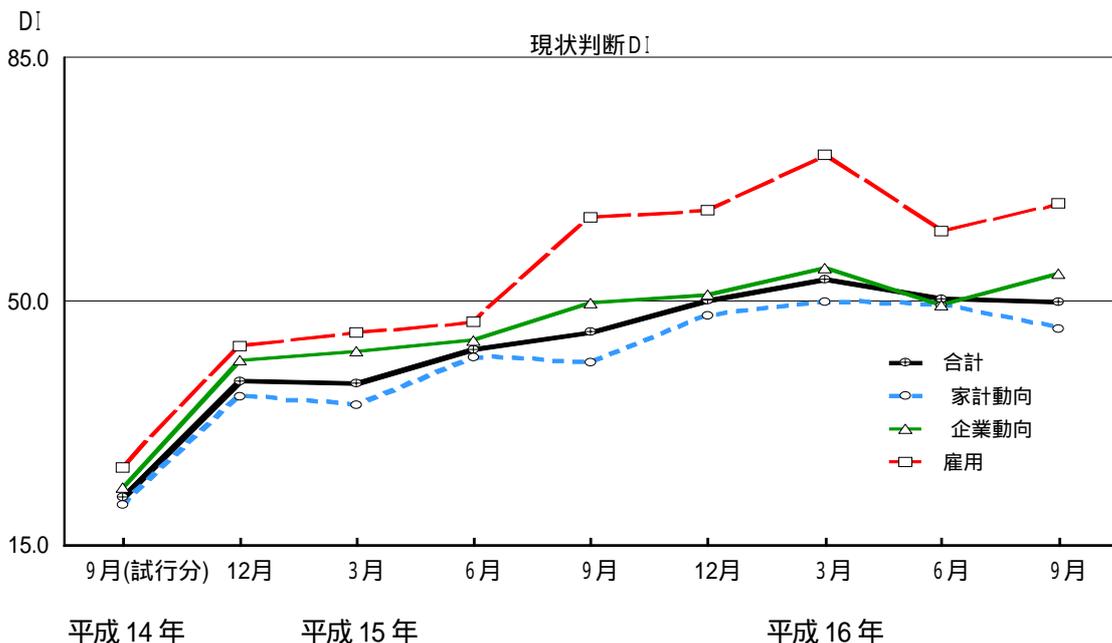
表1 - 1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		45.6	50.1	53.1	50.3	49.9
家計動向関連	家計動向関連	41.2	47.9	49.9	49.3	46.0
	小売関連	41.3	47.1	49.6	49.6	48.4
	飲食関連	42.5	43.8	48.6	43.4	50.0
	サービス関連	38.0	49.1	48.5	48.7	42.6
	住宅関連	66.7	52.8	66.7	63.9	50.0
企業動向関連	企業動向関連	49.7	50.9	54.7	49.4	53.9
	農林水産業	50.0	34.4	37.5	34.4	50.0
	製造業	49.5	56.0	58.1	49.5	51.6
	非製造業	50.0	47.4	54.5	53.3	58.6
雇用関連		62.0	63.0	71.0	60.0	64.0

表1 - 2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成15年 9月	1.8%	21.0%	45.2%	21.7%	10.3%
平成15年 12月	3.8%	27.2%	41.8%	19.9%	7.3%
平成16年 3月	5.0%	29.2%	44.5%	16.0%	5.3%
平成16年 6月	2.5%	26.9%	44.1%	22.2%	4.3%
平成16年 9月	0.7%	24.9%	52.3%	17.4%	4.6%

図1 - 1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは、「良くなっている」の回答構成比が減少し、「悪くなっている」・「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、1.5ポイント減の52.0となった。6月調査分を下回ったものの、引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIが6月調査分を上回ったが、家計動向関連DIが6月調査分を下回った。

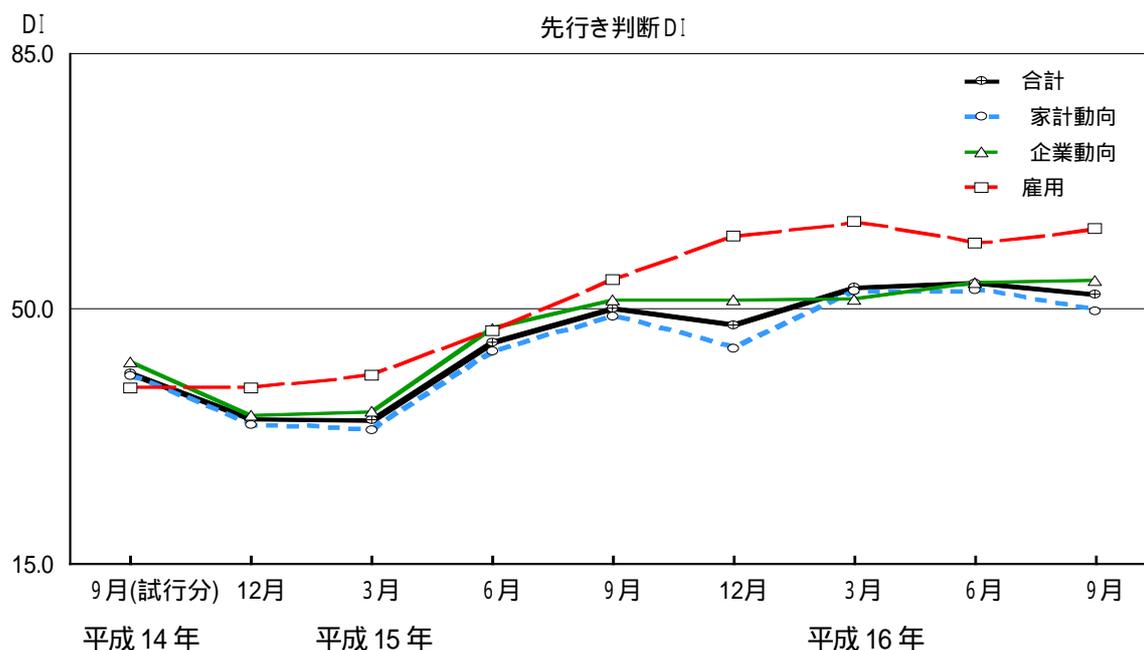
表1 - 3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		50.1	47.8	53.0	53.5	52.0
家計動向関連	家計動向関連	49.0	44.6	52.5	52.6	49.7
	小売関連	48.0	47.5	51.8	54.0	51.6
	飲食関連	50.0	42.5	54.2	43.4	52.5
	サービス関連	49.4	41.9	50.6	53.5	48.5
	住宅関連	50.0	50.0	72.2	55.6	40.6
企業動向関連	企業動向関連	51.2	51.2	51.3	53.6	53.9
	農林水産業	56.3	50.0	56.3	50.0	50.0
	製造業	47.8	52.7	50.0	48.9	53.6
	非製造業	55.2	49.1	51.8	61.7	55.2
雇用関連		54.0	60.0	62.0	59.0	61.0

表1 - 4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成15年 9月	1.4%	28.1%	47.3%	15.7%	7.5%
平成15年 12月	2.1%	21.3%	49.1%	20.9%	6.6%
平成16年 3月	2.5%	29.2%	50.2%	14.2%	3.9%
平成16年 6月	3.2%	24.0%	59.1%	10.8%	2.9%
平成16年 9月	0.7%	27.0%	55.5%	12.8%	3.9%

図1 - 2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは50.4であり、6月調査分と比べて1.7ポイント上回り、横這いを表す50を上回った。業種別にみても、企業動向関連DIが6月調査分を上回ったが、家計動向関連DIが6月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		39.2	48.3	53.0	48.7	50.4
家計動向関連		33.3	43.9	49.3	47.8	45.1
企業動向関連		45.6	54.4	54.4	45.6	57.4
雇用関連		60.0	60.0	75.0	65.0	65.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 9月	1.7%	10.3%	46.6%	25.9%	15.5%
平成15年 12月	1.7%	30.5%	40.7%	13.6%	13.5%
平成16年 3月	10.2%	18.6%	50.8%	13.6%	6.8%
平成16年 6月	1.8%	23.2%	50.0%	17.9%	7.1%
平成16年 9月	1.7%	22.4%	56.9%	13.8%	5.2%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは47.7であり、6月調査分と比べて4.5ポイント下回り、横這いを表す50を下回った。また、DI値は全県を通じて最も低かった。業種別にみても、雇用関連DIが6月調査分を上回ったが、家計動向関連DI及び企業動向関連DIが6月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		44.6	50.9	53.6	52.2	47.7
家計動向関連		41.7	49.3	47.9	48.6	42.1
企業動向関連		48.3	50.0	61.7	56.3	53.3
雇用関連		55.0	65.0	70.0	65.0	70.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 9月	1.8%	17.9%	46.4%	25.0%	8.9%
平成15年 12月	1.8%	24.6%	54.4%	14.0%	5.2%
平成16年 3月	1.8%	30.4%	51.8%	12.5%	3.5%
平成16年 6月	0.0%	32.1%	46.4%	19.6%	1.8%
平成16年 9月	1.8%	23.6%	45.5%	21.8%	7.3%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは52.2であり、6月調査分と比べて1.3ポイント上回り、引き続き横這いを表す50を上回った。また、DI値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIが6月調査分を上回ったが、家計動向関連DIが6月調査分を下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		41.7	46.1	49.5	50.9	52.2
家計動向関連		38.9	44.6	46.5	50.0	46.5
企業動向関連		45.3	48.4	51.8	51.8	61.7
雇用関連		50.0	50.0	65.0	55.0	65.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 9月	0.0%	15.8%	43.9%	31.6%	8.7%
平成15年12月	5.2%	19.0%	39.7%	27.6%	8.5%
平成16年 3月	3.6%	25.5%	47.3%	12.7%	10.9%
平成16年 6月	1.9%	27.8%	46.3%	20.4%	3.7%
平成16年 9月	0.0%	35.7%	41.1%	19.6%	3.6%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは、6月調査分と比べて3.9ポイント下回り、横這いを表す50.0となった。業種別にみても、家計動向関連DI及び雇用関連DIが6月調査分を下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		47.7	56.1	55.4	53.9	50.0
家計動向関連		43.9	55.0	56.4	54.4	49.3
企業動向関連		47.1	50.0	45.3	50.0	50.0
雇用関連		75.0	85.0	80.0	65.0	55.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 9月	3.6%	25.5%	41.8%	16.4%	12.7%
平成15年12月	8.8%	33.3%	35.1%	19.3%	3.5%
平成16年 3月	5.4%	37.5%	33.9%	19.6%	3.6%
平成16年 6月	5.3%	33.3%	35.1%	24.6%	1.8%
平成16年 9月	0.0%	19.3%	63.2%	15.8%	1.8%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは49.1であり、6月調査分と比べて3.6ポイント上回ったものの、引き続き横這いを表す50を下回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが6月調査分を上回った。

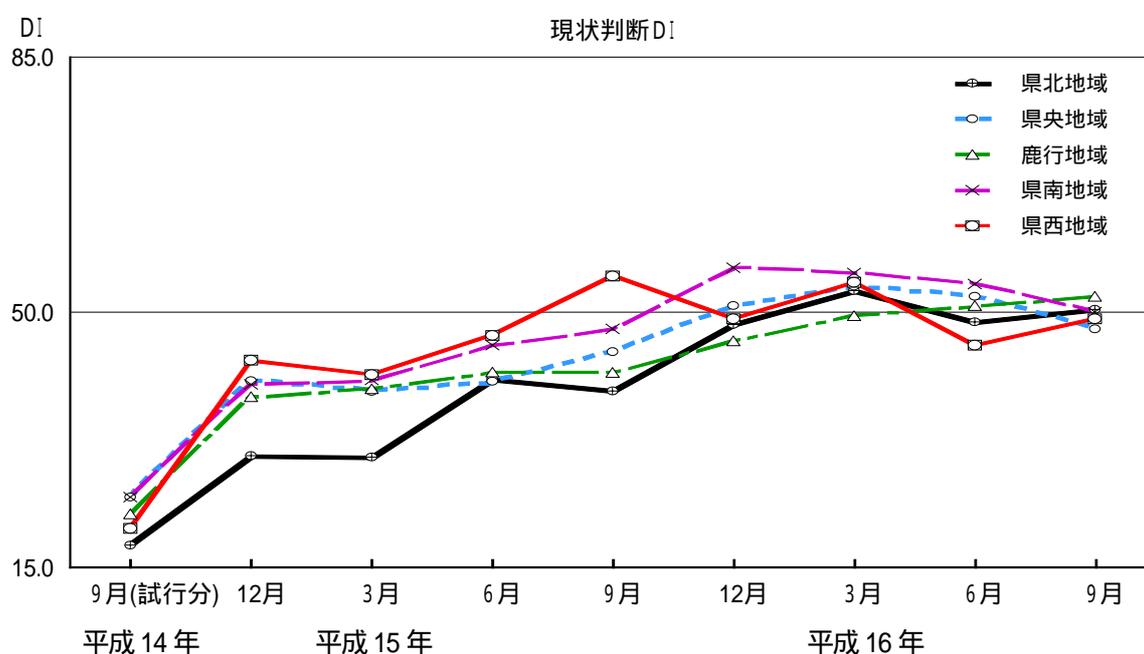
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		55.0	49.1	54.1	45.5	49.1
家計動向関連		49.2	47.0	49.2	45.3	46.9
企業動向関連		61.1	51.4	60.3	44.7	48.6
雇用関連		70.0	55.0	65.0	50.0	65.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 9月	1.8%	36.4%	47.3%	9.1%	5.4%
平成15年 12月	1.8%	28.6%	39.3%	25.0%	5.3%
平成16年 3月	3.6%	34.5%	38.2%	21.8%	1.9%
平成16年 6月	3.6%	17.9%	42.9%	28.6%	7.1%
平成16年 9月	0.0%	23.6%	54.5%	16.4%	5.5%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは53.4であり、6月調査分と比べて3.4ポイント上回り、横這いを表す50を上回った。また、DI値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが6月調査分を上回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		44.8	43.2	52.5	50.0	53.4
家計動向関連		41.7	35.8	53.4	50.0	52.1
企業動向関連		48.5	54.4	48.5	48.5	54.4
雇用関連		55.0	60.0	60.0	55.0	60.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 9月	0.0%	25.9%	44.8%	12.1%	17.2%
平成15年12月	1.7%	16.9%	47.5%	20.3%	13.6%
平成16年 3月	5.1%	22.0%	52.5%	18.6%	1.7%
平成16年 6月	0.0%	21.4%	60.7%	14.3%	3.6%
平成16年 9月	0.0%	25.9%	63.8%	8.6%	1.7%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは51.4であり、6月調査分と比べて4.4ポイント下回ったものの、引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、家計動向関連DI及び企業動向関連DIが6月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年 9月	平成15年 12月	平成16年 3月	平成16年 6月	平成16年 9月
	合計		49.1	48.2	51.8	55.8
家計動向関連		48.6	45.3	48.6	53.6	48.6
企業動向関連		50.0	55.0	56.7	59.4	55.0
雇用関連		50.0	50.0	60.0	60.0	60.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 9月	1.8%	21.4%	55.4%	14.3%	7.1%
平成15年12月	0.0%	22.8%	52.6%	19.3%	5.3%
平成16年 3月	1.8%	23.2%	58.9%	12.5%	3.6%
平成16年 6月	3.6%	28.6%	57.1%	8.9%	1.8%
平成16年 9月	0.0%	25.5%	56.4%	16.4%	1.8%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは51.8であり、6月調査分と比べて1.3ポイント上回り、引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、企業動向関連DI及び雇用関連DIが6月調査分を上回ったが、家計動向関連DIが6月調査分を下回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年 9月	平成15年 12月	平成16年 3月	平成16年 6月	平成16年 9月
	合計		51.3	49.6	55.5	50.5
家計動向関連		52.1	46.6	54.9	49.3	47.9
企業動向関連		50.0	54.7	51.8	51.8	58.3
雇用関連		50.0	55.0	70.0	55.0	60.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 9月	1.8%	24.6%	52.6%	19.3%	1.7%
平成15年12月	3.4%	22.4%	50.0%	17.2%	7.0%
平成16年 3月	3.6%	38.2%	41.8%	9.1%	7.3%
平成16年 6月	1.9%	22.2%	55.6%	16.7%	3.7%
平成16年 9月	0.0%	33.9%	44.6%	16.1%	5.4%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは51.8であり、6月調査分と比べて4.3ポイント下回ったものの、引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、企業動向関連DIが6月調査分を上回ったが、家計動向関連DI及び雇用関連DIが6月調査分を下回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		51.8	50.0	50.4	56.1	51.8
家計動向関連		50.8	49.3	50.7	58.1	50.0
企業動向関連		52.9	42.6	51.6	50.0	52.8
雇用関連		55.0	80.0	45.0	65.0	60.0

表2-18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 9月	1.8%	34.5%	38.2%	20.0%	5.5%
平成15年 12月	5.3%	19.3%	50.9%	19.3%	5.2%
平成16年 3月	1.8%	23.2%	53.6%	17.9%	3.5%
平成16年 6月	7.0%	24.6%	56.1%	10.5%	1.8%
平成16年 9月	1.8%	26.3%	54.4%	12.3%	5.3%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは51.4であり、6月調査分と比べて3.5ポイント下回ったものの、引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、雇用関連DIが6月調査分を上回ったが、家計動向関連DI及び企業動向関連DIが6月調査分を下回った。

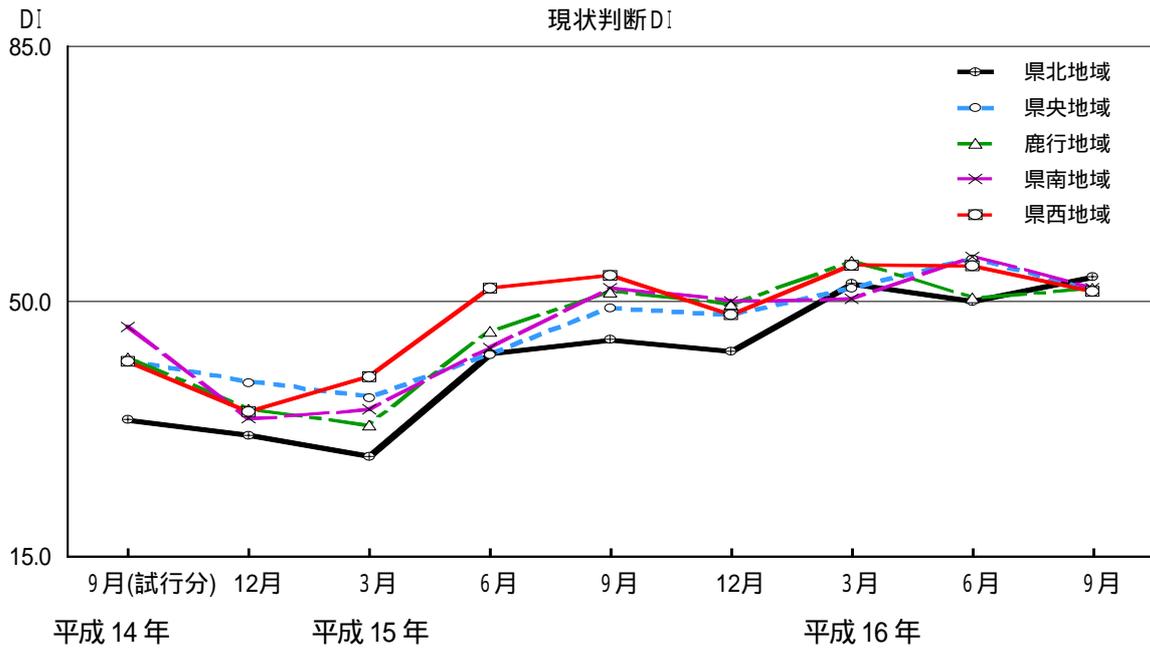
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年	平成16年
		9月	12月	3月	6月	9月
合計		53.6	48.2	55.0	54.9	51.4
家計動向関連		52.3	46.1	55.3	52.3	50.0
企業動向関連		54.2	50.0	48.5	57.9	50.0
雇用関連		60.0	55.0	75.0	60.0	65.0

表2-20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 9月	1.8%	34.5%	45.5%	12.7%	5.5%
平成15年 12月	0.0%	25.5%	43.6%	29.1%	1.8%
平成16年 3月	0.0%	40.0%	43.6%	12.7%	3.7%
平成16年 6月	3.6%	23.2%	66.1%	3.6%	3.6%
平成16年 9月	1.8%	23.6%	58.2%	10.9%	5.5%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	281 人	93.7%
県北地域	60 人	58 人	96.7%
県央地域	60 人	55 人	91.7%
鹿行地域	60 人	56 人	93.3%
県南地域	60 人	57 人	95.0%
県西地域	60 人	55 人	91.7%

景気の判断理由

1 景気の現状判断理由

(1) 県北地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	雇用関連	人材派遣業	派遣期間が延長している。また、新規での申込みが増加している。	
やや良くなっている	家計関連	農産物直売所	客数が増加している。	
		卸売業	秋物商品の搬入のため、セール商品同様、プロッパの売上げも良くなっている。	
		居酒屋	夏場は天候に恵まれた。	
		タクシー運転手	昨年は節電対策等で動きが悪かったが、今年はその影響が少なかった。	
		レジャー施設	売上げ、入園者数とも前年対比で増加している。	
		理・美容店	企業の連休が多かったため客数が若干増加した。	
	企業関連	製造業（食品）	パートの求人広告を出したが、従来に比べて他社の求人も増加しているためか、あまり人が集まらない。	
		製造業（電気機械器具）	主要取引先からの受注が引き続き好調である。	
		製造業（電気機械器具）	業種によって差はあるが、デジカメ・携帯電話等関連企業は良くなってきている。	
		非製造業（建設業）	市町村合併に伴い建築業の受注が増加しているようである。土木建設業も多少良くなっているように感じられるが、低利益のため経営の内容は変わらない。	
		非製造業（金融業）	一部の製造業及び資材関連の業種で受注が増加傾向にあり、若干の回復基調にあると思われる。しかしながら、他業種全般に波及するまでには至っていない。	
		非製造業（不動産業）	マンション等を含めイベントや販売会への集客力は確実にアップしている。また、住宅ローン減税の関係が駆け込み需要も目立つ。	
		雇用関連	学校就業関係者	求人が増加している。常用雇用の求人も以前よりは増加している。
変わらない	家計関連	商店街代表者	来街者数が減少したまま回復しない。	
		スーパー	客単価及び客数に変化がない。他の競合店も客数や買上点数に変化がないようである。	
		衣料品専門店	客単価の落込みを客数の増加でカバーし、前年売上と同じくらいで推移している。	
		家電販売店	悪い状態が続いている。ボーナス商戦、アテネ需要時のみ高水準であった。	
		自動車販売店	新車の市場が前年並みである。	
		ガソリンスタンド	石油の値上げがあり一般には良くなったように感じられるが、中味は変わらない。	
		小売業（靴製品）	入店客数、買上げ客数ともに変わらない。	
		居酒屋	売上げ、客数とも変わらず、客からも景気が良くなったという声は聞かれない。	
		スナック	客単価が低下したままである。	
		食堂	景気は安定したと思われる。	
		観光型ホテル	客の動向に変化がない。	
		観光型ホテル	客足が伸びていない。他ホテルも9月は苦戦しているようだ。前年同期比で宿泊は減少しているが、昼食や日帰り客は増加しており、客の動きとしてはあると思われる。	
		観光型ホテル	収支状況から鑑みて、回復の兆しが見えない。	
		旅行代理店	個人旅行については特に増減が感じられない。首都圏では個人需要が伸びているようであるが、県央から県北地域においては変化は感じられない。	
		タクシー運転手	ビジネスホテルでの朝の予約数が変わらない。また、企業関係者の利用が少ない。	
		ドライブイン	客数・客単価に変化が見られない。	
		ゴルフ場	数か月前は幾分良くなったかと思われたが、ここにきてあまりパツとしない。空梅雨、猛暑、多雨、台風が多発など、気候のせいもあるかと思われる。	
		レジャー施設	天候に恵まれ、入場者数と売上げは増加したが、客単価は変わらない。	
		住宅販売会社	受注数に変化がない。	
		企業関連	水産業関係者	茨城海域は不漁で推移しており、漁業者、加工業者及び冷凍業者は不安定な営業をしている。また、これら関係者に対し、金融機関の貸出しが厳しくなっている。
			製造業（一般機械器具）	業種によってばらつきはあるが、全体的にはほぼ平行線である。
	製造業（一般機械器具）		仕事の忙しさが以前と変わらない。	
	製造業（電気機械器具）		短期的な繁閑を繰り返しており、中長期的な好転は感じられない。	
	製造業（電気機械器具）		業績数値に変化が見られない。	
	製造業（輸送用機械器具）		作業量に大きな変化がない。	
	製造業（電気機械器具）		3か月前と同じくらいの生産数量を維持している。	
	非製造業（建設業）		立地条件の良いマンション（分譲）は成約率が高く、個人レベルでは景気の悪さは感じられない。	
非製造業（情報処理サービス）	例年、年度末（1～3月）までは受注件数等が横這いである。			
雇用関連	求人開拓員		仕事の増加による求人増ではなく、退職者（特に若年者）の補充による求人増であり、景気が良くなっているとは思われない。	
	求人広告	少しずつではあるが、求人を考えている企業が増加してきているように思われる。		
	公共職業安定所	依然として労働力の不足は派遣や請負で対処する傾向が続いている。求人数は微増傾向にあるが、就職数はあまり伸びていない。		
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	暑さで消費が拡大していた3か月前と比べると、やや落込んでいます。現在特に良い傾向も悪い傾向もないが、価格より品質や健康への志向が強いように思われる。	
		コンビニエンスストア	7・8月は天候が良かったこともあり客数・客単価とも上昇していたが、9月に入り天候不順が続きだしてからは堅実傾向となり、客数・客単価とも減少している。	
		小売業（酒類）	地元大企業の大型連休後のためか、経済的に元気が感じられない。	

回答区分	分野	業種・職種	理由	
やや悪くなっている	家計関連	タクシー運転手	9月に入ってから1日当たりの営業回数、売上げが減少傾向にあり、待機時間が長くなった。特に土・日・祝日の仕事が減少している。	
		パチンコ店	来客数及び売上げが低迷している。	
		ゲームセンター	猛暑により8月はお盆前後を中心に客数が伸び悩んだ。その後若干の回復基調にあるものの、路面店を中心にアミューズメント業界全般で前年割れが続いている。県北地域は特に活気がなく、さらにいわき地区まで消費低迷の感が著しい。	
		クリーニング店	客数・客単価が減少している。	
悪くなっている	企業関連	林業関係者	原木丸太の単価が低下している。	
		家計関連	小売業（土産物）	夏休みや猛暑であっても海水浴客や来店客が減少している。
			レストラン	学校や会社が夏休みに入ってから客数が減少した。また、洋食は暑さに弱い。
		タクシー運転手	大企業でタクシーの利用回数を減らすという通達が出たため、非常に不安である。	

(2) 県央地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	企業関連	製造業（一般機械器具）	受注と売上げが急回復している。久しぶりに社内のムードが良くなってきている。
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	最近は日常会話の中で倒産やリストラなどの話があまり聞かれなくなった。
		農産物直売所	8月は猛暑で外出を控えたため前年の実績を5か月ぶりに下回ったが、9月は好調である。
		タクシー運転手	個人での利用客に変化はないが、企業関係での利用客が徐々に増加してきている。
		ゴルフ場	6月時の予想に反して来場者数が増加している。7～9月に導入した「平日特別優待券」の効果によるものと思われる。
		レジャー施設	艇を買い替える客や、新規で購入したいと見学に来る客が増加している。
	企業関連	製造業（土石製品）	高額商品が売れるようになってきた。
		製造業（金属製品）	決定まではいかないが、引合い及び問合せが増加している。
		非製造業（金融業）	取引先から小口ではあるが設備資金の相談が増加しており、実際に融資したところもある。
		非製造業（情報処理サービス）	受注量及び残業量が増加した。
	雇用関連	人材派遣業	製造業を中心に受注が増加してきている。
雇用相談員		金属関係の製造業・加工業では受注量が増加傾向にある。ただし、多品種、少量生産、納期の短縮により利幅が縮小している。	
求人広告		求人数が増加している。	
公共職業安定所		7月の管内事業所業況調査では、業況DIが前回調査比1.8ポイント改善した。8月の求職申込件数は若干増加したが、求人数は12か月連続で前年同月を上回っている。また、雇用調整助成金の計画提出もなかった。	
変わらない	家計関連	百貨店、総合スーパー	消費があまり拡大していないと思われる。来店客数は引き続き前年割れとなっている。
		百貨店、総合スーパー	付加価値あるいは目新しさを感じさせるものへの購買意欲は高い。入店客数は減少しているが、売上げはさほど減少しておらず、商品価値に理解が得られるものは買上げにつながっているように思われる。
		スーパー	客数は増加しているが、買上点数は伸びていない。
		家電販売店	時節的な動きで良くなったように思われたが、客は価格を見て慎重に商品を選んでおり、大きな変化は見られない。
		自動車販売店	前年に対して大きな伸びもない。
		スーパー	売上げ、客数とも横這いである。
		専門スーパー	一般消費者の買上単価は低下しているが、極端に冷え込んでいるようには思われない。工事業者の資材関連の購入については以前のようなまとめ買いが多少出てきている。
		ファミリーレストラン	客の消費動向に変化が見られない。
		レストラン	売上げが前年同月比でもあまり変わらない。
		レストラン	宴会の利用客が増加しておらず、コンパニオンなどを入れることも少ない。
		観光型ホテル	好天で夏の海は家族連れで賑わったが、稼働率は前年比で微増であった。
		旅行代理店	海外旅行は良くなってきたが、昨年新型肺炎SARSの影響の反動増の可能性はある。
		ドライブイン	昨年の冷夏と違い暑い日が続いていたため期待していたが、思ったほど客数・売上げが伸びなかった。また、客単価も低下したままである。
		ドライブイン	夏期は団体予約が少ないが、9月から動きが見られるようになってきた。しかしながら、集客が悪く企画を取り消すことも多い。一般の客も購買力は鈍化している。
		レジャー施設	引き続き物販部門の客単価は上昇しているものの、利用率が減少している。
		建築設計事務所	景気は上向きとの報道があるが、依然として企業の設備投資は活発ではない。また、官公庁発注の物件も少ない。
	企業関連	製造業（出版・印刷業）	需要が相変わらず少ない。
		製造業（一般機械器具）	2年前と比べると良くなっているが、3か月前とは変化がない。
		非製造業（建設業）	安定はしているが、良くなっているというほどでもない気がする。自動車業界は好調のようだが、建設業界は横這いと感じられる。
		非製造業（輸送業）	秋になり貨物の動きがもう少し活発になると思われたが、さほどではなかった。
		非製造業（広告代理業）	企業の販促意欲に大きな変動はない。猛暑の影響をプラスに受けている企業とマイナスに受けている企業とで相殺されているため、夏の商戦は大きな盛り上がりを見せずに終わったようである。
	雇用関連	学校就業担当者	良い材料も悪い材料も見当たらない。

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	8月はやや上昇傾向にあったが、9月に入ってから再び前年割れの状態である。
		スーパー	消費税の総額表示以降、客単価の下落が止まらない。安いものしか動かない傾向が強まっている。
		専門スーパー	休日の来店客数は増加しているが、購入者数となると減少しており、単価も低下している。また、家族で時間を過ごせるところで、無理に買物をしなくともよく、入場料等もかからない場所への集客が目立っている。
		都市型ホテル	企業の利用が減少している。
		都市型ホテル	原油価格が上昇している。また、客単価が低下している。
		タクシー運転手	駅での客待ち時間が長く、売上げも減少気味である。また、一般企業等では依然50歳以上を対象としたリストラが進んでいるようである。
		タクシー運転手	営業回数が減少しており、一回当たりの単価も低下している。
		タクシー運転手	運転代行業者の影響により、予約の電話が減少している。また、飲食店に活気がなく、深夜の人通りも少ない。週のうち忙しいのは1～2日に限られてしまった。
		観光名所	6月までは好調を維持していたが、7・8月の天候不順で客足が伸び悩んだ。現在は秋の行楽シーズン前の端境期でもあり、土日を除くと活気が感じられない。また、高額商品等も動きが鈍い。
		ゲームセンター	猛暑とオリンピック人気により、来店客数が伸びなかった。アミューズメント施設に来店して暑さを凌ぐといった行動が少なかったように感じられる。
悪くなっている	家計関連	商店街代表者	夏の暑さやオリンピック等により外に出る機会が少なかったと思われる。エアコンやビールなど一部の商品を除いてはまったく物が動かない状態である。
		理・美容店	商店が次々と閉店して、人出がかなり減少している。
	企業関連	製造業（食品）	客の買上金額がだんだん少額になってきており、買い控えの傾向が見られる。
		製造業（出版・印刷業）	6月は各種団体の総会時期のためそれに関する印刷物等の動きが顕著であったが、8月以降は官公需も低調であり良い材料がない。
	企業関連	製造業（食品）	猛暑の影響が出ている。

(3) 鹿行地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	スーパー	猛暑のため涼を求めた海水浴客や学生の合宿等で民宿からの注文が多かった。ただし、部門間での売上げ差が大きく、総体的には極端に売上げ高が変動したわけではない。	
		スーパー	他店のように日替わりの目玉商品はないが、客数、売上げとも伸びている。	
		小売業（酒類）	昨年と比べ天候もよくなり暑かったため、飲料、ビール、アイス、日配品の売上げが好調であった。	
		家電販売店	猛暑だったことが幸し、エアコンの売行きが好調だった。	
		自動車販売店	高額なものは落ち込んでいるが低額なものは伸びており、全体的にも伸びている。	
		洋食食堂	新メニューの導入により客数が増加している。また、好天が続いているため外出の機会が増加しており、冷たい飲み物等の人気も出ている。	
		日本料理店	今年の同時期は開店以来最低の売上げだったが、今年は良くなってきている。	
		理・美容店	客の来店サイクルが短くなったように思われる。	
		サービス業	受注量及び受注金額が増加しており、新規顧客も増加している。	
		住宅販売会社	住宅のローン控除税制等もあり、展示場来場者や具体的計画者が増加している。	
	企業関連	農業関係者	風水害の影響を受けなかったため、野菜類の価格が上昇している。	
		製造業（食品）	贈答品の売上げが増加している。また、霞ヶ浦のトロール解禁によりハゼが豊漁である。	
		製造業（化学工業）	原油価格の高騰が影響すると思われたが、売上げは安定している。	
		製造業（窯業・土石製品）	中国向けをはじめとする輸出の伸び及び製造業向け鋼材等の値上げ等による収益改善で、鉄鋼業としては景気が上向きであると思われる。しかしながら、中小企業にとっては製品価格の競合や製品の需給バランス等依然厳しい状況にある。	
		製造業（金属製品）	自動車や東南アジア向けの輸出が順調で、販売数量が増加している。	
		非製造業（輸送業）	引合いが増加している。米や飲料水、肥料、工業薬品等の保管の話が出てきている。	
		非製造業（不動産業）	出入の業者がいつもより忙しいようである。	
		雇用関連	人材派遣業	製造業を中心に企業からの求人件数が増加傾向にある。
			公共職業安定所	求人の申込が増加傾向にある。管内企業でも回復している企業が増加している。
学校就業関係者	企業からの求人が増加している。また、機械のメンテナンス業者が多忙である。			
変わらない	家計関連	小売業（金物店）	売上げが横這いである。資材の売行きは低迷している。	
		商店街代表者	米の収穫時期だが、今年は低価格のため、良くなる様相ではない。	
		商店街代表者	景気は良くなっているとの報道があるが、地元の客からは「大手の企業等では上向きだが中小企業等是不変わらない」との声が聞かれる。	
		商店街代表者	期待していたほどではない。むしろ現実には厳しい状態であると思われる。	
		農産物直売所	前年同月と特に変わらない。	
		スーパー	全体的には横這いの状況が続いていると思われるが、「良い店」と「悪い店」に大きく分かれてきている（二極化）印象がある。	
		小売業（薬品店）	大企業の業績は良いが、中小企業の景気は悪く、依然として財布のヒモは固い。	
		タクシー運転手	テロによる不安や石油製品の値上がり景気回復にブレーキをかけていると思われる。	
		タクシー運転手	客数に変化がない。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	タクシー運転手	タクシーではなくマイカーやバスでの送迎が増加している。また、学生が利用しなくなった。
		住宅販売会社	来店客数が変わらない。
		ドライブイン	天候に恵まれ農産物も良質で安価なものが多くなったが、来客数や売上げは昨年とあまり変わらない。暑い日が多かったため、アイスクリームはよく売れた。
	企業関連	製造業（電気機械器具）	売上高及び業績があまり変わらない。
		製造業（飼料製造）	猛暑で売上数量は大幅に減少したものの、売上単価が上昇しているため、売上高自体に大きな変化はない。
		製造業（化学工業）	販売量は伸長しているが、原料価格の高騰で利益は横這いである。
		非製造業（金融業）	個人消費が低迷したままである。
	雇用関連	非製造業（保険業）	契約件数が変わらない。
		民間職業紹介業	求人件数は多少増加傾向にあるが、職種及び内容（期間）については良くなっていない。企業は優れた人材、高いスキルを求めている。
	やや悪くなっている	家計関連	求人開拓員
専門スーパー			猛暑のため品薄になる季節商品が多かったが、それが一段落した現在は原油高の影響もあって仕入値が高くなっており、思い切った値引きができない。
書店			商店街の来店客が減少している。また、文具店の廃業が増加している。
スナック			客数が若干減少し、消費金額も減少している。
観光型ホテル			利用人員が落込んでいます。
観光型ホテル			予約が減少している。
小売業（菓子販売店）			今夏の記録的な暑さには、外食産業やコンビニなどとは異なり、菓子販売店はお手上げ状態であった。
タクシー運転手			この時期はいつも悪くなる。加えて運転代行業の影響もある。
観光名所職員			シーズンも過ぎ、観光客が次第に減少しつつある。
パチンコ店			売上げ及び客単価が低下している。例年8月は特に売上げが伸びる時期であるが、今年は振るわなかった。
クリーニング店			周りの農家から米が豊作貧乏で安い、野菜も天気良すぎてだめだ等の声が聞かれる。
室内装飾業			工事件数が減少している。
悪くなっている			家計関連
	ゴルフ場	前年比、計画比とも大幅にマイナスで、先の予約もまったくの不調である。	

(4) 県南地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	自動車販売店	新車の販売台数が微増した。
		小売業（各種食料品）	天候に恵まれたため、客数が増加し、売上単価も上昇した。
		和食食堂	昨年の冷夏に比べ、猛暑により人の動きが多くなったように感じられる。特に夏休み、お盆等の行事では、多少ではあるが来客数が増加した。
		都市型ホテル	婚礼や宴会はあまり変わらないが、宿泊に関しては団体等が増加している。
		旅行代理店	夏の好天に続き、秋の旅行も国内・海外とも動いているように感じられる。
	企業関連	製造業（食品）	猛暑やオリンピックで需要が伸びたという話が聞かれる。
		非製造業（建設業）	見積りが増加している。現在の社員数での対応は大変だが、採用までは考えていない。
		非製造業（建設業）	近くの工業団地では、横這いの事業所もあるようだが上向きの事業所も見られる。飲食店街は横這いのようなのである。
		非製造業（建築設備業）	受注が増加している。
	雇用関連	非製造業（金融業）	つくば地区の不動産関連業者は好況である。つくばエクスプレスが来年秋開通となるため、土地の動きが活発で、地価の下落幅も縮小傾向にある。商品土地が少ないことも要因の一つであると思われる。
変わらない	家計関連	公共職業安定所	求職者が減少しており、求人数も持続的に増加している。ただし、非正規雇用やアウトソーシング等、質的な面でのミスマッチが多い。
		スーパー	前年比で売上げが上昇していたが、ここ数か月伸びが止まっている。買上点数も前年比で伸びていない。
		スーパー	売上げが横這いである。
		スーパー	夏商戦は前半は猛暑、後半は台風の影響による天候不順で、期待していたほどの伸びは見られなかった。
		コンビニエンスストア	猛暑の影響も落ち着き、気温が平年並みになると売上げは横這いが落ちる傾向にある。
		衣料品・身の回り品販売店	努力はしているが、変わらない。
		農産物直売所	入店客数は若干伸びているが、売上げの伸びが前年を下回っている。猛暑による野菜類の値下がり要因と考えられる。
		農産物直売所	客数に変化がない。
		洋食食堂	昼のサラリーマンの客が減少したまま戻らない。
		洋食食堂	客から「不景気」という言葉が聞かれるが、少ないながらも常連の客に助けられており、例年並である。
		寿司店	夏のボーナスが増加したという話はほとんど聞かれず、ローンなどの支払いが大変なようである。

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	都市型ホテル	冷夏だった昨年と比べて多少景気は上向いたが、宿泊、宴会等の予約状況は3か月前と変わらない。
		旅行代理店	景気が悪くなったとは思われず、比較的順調である。また、海外旅行をする客が増加している。
		タクシー運転手	どん底のままである。これ以上収入が減少したらタクシー乗務員は続けられない。
		タクシー運転手	運転代行業者への二種免許義務付けから2か月がたったが、客数は回復せず横這いの状態である。
		ゴルフ場	来場者数や来場者の口振り等を勘案すると、大きな変化は見受けられない。
		ゲームセンター	取引先のショッピングセンターを中心に、客数や客単価に伸びが見られない。また、販促やイベント等で集客を上げてコストをカバーできていない。
		理・美容店	後継者不足で近郊の店舗が数箇所閉店した。経営者の高齢化等により活力あふれる経営が難しい個人店は、年中無休のチェーン店に押され気味である。
		住宅販売会社	展示場への来場状況、住宅の建築予定時期等に目立った変化が感じられない。
		企業関連	農業関係者
	製造業（食品）		相変わらず購買意欲がない。
	製造業（窯業・土石製品）		オリンピック、猛暑と、それぞれ関連する企業においては大きな影響があったと思うが、全体的には変わらないのではないか。
	製造業（コンクリート製造業）		新聞等で景気は回復基調と言われるが、あくまで大企業及び都市部だけであり、地方都市においては良くなっているとは思われない。
	製造業（一般機械器具）		新製品の立ち上げ需要があるものの、既存生産品については横ばいであり、変化はあまり感じられない。
	製造業（金属製品）		アジアへ流出した主力製品はもう戻る見込みがないため、残った図面で細々と製造している。
	非製造業（輸送業）		貨物の入出庫の動きが少ない。扱い台数も減少傾向にあるが、特定の貨物は動いている。また、在庫は横這い状態である。
	非製造業（不動産業）		部門によりプラスマイナスはあるが、全体としては変わらない。
	雇用関連	人材派遣業	供給すべき人材が減少している。無理な投入を行うと、ミスマッチ等が生じ顧客への信用を落としかねない。
		雇用相談員	一部好調な輸出企業を除き、その他の企業では依然横這い状態が続いており、急速に好転する様子は見られない。運輸関係では荷動きが出てきているが、燃料の値上がりにより収益が圧迫されている状況である。
		求人広告	求人広告件数が変わらない。
学校就業関係者		一般向けの在職者訓練等の応募者の中に40代の男性の姿が見られるため、能力の活用状況はあまり良いとは思われない。	
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	人口及び世帯数の増加がほとんどない地区に新しいスーパーマーケットがオープンした。12時まで営業する店も増加し客単価はどんどん低下しており、前年比で200円も下回っている。
		専門スーパー	夏物の売上げは瞬間的に増加したが、その分買い控えがありトータルではマイナスであった。お盆時期の売上げは年々減少している。
		ガソリンスタンド	原油価格の高騰により1リットル4～5円の値上げになっている。しかし現実には製品価格へ転嫁できない状況である。
		タクシー運転手	売上げが税抜きではほとんど少ししかない。
		タクシー運転手	大きな病院の前で待機しているが、最近は家族による送迎が目立ち、タクシーはなかなか利用してもらえなくなっている。
		タクシー運転手	会社関係の接待での利用がない。また、駅での人の乗り降りが少なく、営業回数及び売上げが減少している。
	企業関連	製造業（食品）	商品を選ぶときに何回も金額を計算している。
		製造業（食品）	中元商戦の売上げが振るわない。
悪くなっている	企業関連	非製造業（建設業）	パートの仕事がないという話が聞かれる。あっても半日だけの出勤のようだ。

(5) 県西地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	夏の猛暑で海や山へ行く機会が増え、オリンピックもあり活気付いていた。また、夏のボーナスもそれなりに前年を上回っているようだ。
		ガソリンスタンド	6月に続き、9月にも大幅な石油製品の値上がりがあったが、新聞やマスコミ等の報道により消費者からの理解が得られ、値上がり分を店頭価格に転嫁できている。ただし、数量に関しては前年割れの状態である。
		和食食堂	新メニューにより客にアピールできている。季節感を常に出しながら、客を飽きさせないよう努力している。
		都市型ホテル	景気の落ち込みが落ち着いたら、前向きな話が聞かれるようになってきている。宿泊者も少しずつではあるが増加している。
		旅行代理店	客の動きが良くなっているように思われる。
		ゴルフ場	6～7月の来場者数は前年比わずかに増加したが、8月は記録的な猛暑により冷夏だった昨年と比べ減少した。しかしながら、天候等の影響を除けばおおむね好調である。
	企業関連	製造業（石材業）	石材業界は例年7～10月は他の月より仕事が入る。しかしながら、年を追うごとに注文は少なくなってきたのが現状である。

回答区分	分野	業種・職種	理由		
やや良くなっている	企業関連	製造業（一般機械器具）	新規の客から見積りが出るようになった。既存の顧客からの仕事も増加している。		
		非製造業（倉庫業）	物流、倉庫とも動きが良い。		
		非製造業（不動産業）	賃貸・売買とも来客数が増加している。		
	雇用関連	人材派遣業	仕事は忙しいが働く人が見つからない。		
		求人広告	製造業の求人が、アウトソーシングではあるが増加している。		
学校就業関係者		求人件数が増加してきている。			
変わらない	家計関連	商店街代表者	客数が同程度で推移している。		
		スーパー	同業種では求職者は少ないが、製造業では工場閉鎖に伴い失業者が増加している。		
		スーパー	売上げや客数等に変化がない。		
		スーパー	客単価、買物の中身ともに大きな変化は見られない。		
		家電販売店	今夏は猛暑やオリンピック等によるエアコンやデジタルAV機器の需要があり景気は上昇すると思われたが、まだ必要性に応じた商品が主であり、低迷したままである。		
		自動車販売店	ボーナス支給後も販売の動きは鈍い。また、新型車が発売になっても動きは良くない。		
		衣料品専門店	来店客数の減少が続いており、買上点数も一定のため、変化が感じられない。		
		洋食食堂	夏休みに入ってから、一般主婦の来店が少なかった。また、オリンピックを見るためか特にサラリーマンは帰宅を急ぎ、店に立ち寄りなくなった。		
		寿司店	客数及び客単価が伸びない。		
		一般食堂	依然として景気に変動はなく、回復の兆しが見られない。		
		都市型ホテル	集客率から判断すると伸び始めているようにも思われるが、相変わらず低料金の利用客が多い。		
		タクシー運転手	日中は病院、買物、営業と適当に仕事が続いているが、夜になると居酒屋等に客がきていないためかさっぱり動く気配がない。		
		タクシー運転手	低迷したまま推移している。街中に活気が感じられず、利用客にも変化が感じられない。数か月前に感じた上向きの気配は今ではまったく感じられない。		
		ドライブイン	ここ数か月売上げが前年並で推移している。		
		ゴルフ場	低価格の設定をした週に来場する傾向は変わらない。		
		ゲームセンター	お盆期間中の客の動向はあまりよくなかったが、その減少分を8月後半からの売上げによりカバーすることができた。		
		レジャー施設	敬老の日が第3月曜日となり9月に3連休ができた。それにより観光地に出かける機会が増加しレジャー産業はプラスになると思われるが、夏のレジャーとは違い小旅行型・節約型だと思われる。		
		住宅販売会社	客の状況に変化がない。		
		企業関連	企業関連	農業関係者	米価の引下げ及び青果物価格の動向に変化がない。農家所得も横這いである。
				製造業（印刷業）	猛暑やアテネオリンピックにより、衣料店や電気店等は好況だったと思われるが、その反面廃業に追い込まれた飲食店や縫製関係企業もあり、全体としては変わらないと思われる。
				製造業（石材業）	9月は秋彼岸供養の墓石の注文が増加する時期であるが、変化が見られない。地元の電気関係の製造業は引き続き忙しいようである。
				製造業（電気機械器具）	仕事上で新規の話もあるが、総金額などでの変化は見られない。
				製造業（印刷業）	1960～70年代にかけて進出してきた企業の撤退が相次ぎ、新規の進出もあまり見られない。需要も拡大せず、一定のパイを安値で奪い合っている状態である。
非製造業（広告業）	価格だけの競争をしている状況になっているが、新規の客を獲得しても既存の顧客を他店に取られたりしてしまうため、売上げが変わらない。				
雇用関連	公共職業安定所			3か月前は求人数が増加傾向を示していたが、このところ伸率が一定である。基調としてはやや良好といったところであるが、賃金などは低下傾向にあり、事業所側の競争激化・コスト削減などの窮状が伺える。	
やや悪くなっている	家計関連	専門スーパー	単価の下落に歯止めがかからず、買上点数も伸びない。		
		タクシー運転手	例年より売上げが大きく減少した。		
		ドライブイン	今年の夏は暑い日が続き、バス旅行（特に老人会の利用）が少なかった。また、大型台風のため新潟方面の団体予約のキャンセルがあるなど、厳しい月日であった。		
		理・美容店	残業時間が減った、高校生の就職が決まらない、再就職がなかなかできない等の声が多く聞かれるようになった。		
		理・美容店	例年暑くなると来客頻度が高くなるが、今年は日曜日や祭日に集中し、忙しい日とそうでない日の売上げの差が大きかった。		
		建築設計事務所	個人からの業務依頼が減少している。		
		企業関連	企業関連	製造業（食品）	4月からの消費税総額表示により、客は商品の店頭価格に割高感を感じているようであり、買い控えが見られる。そのため、販売実績が徐々に下がりつつある。
製造業（化学工業）	過去3か月は材料費高騰等の影響もあり、顧客が前倒しで先行発注していたが、今月から在庫調整が行われ受注に陰りが見えている。もともとと実需はなかったのかもかもしれない。				
非製造業（建設業）	受注量が減少している。また、企業の設備投資も少ない状況にある。				
悪くなっている	家計関連	タクシー運転手	企業の上半期決算が近づいてきているにもかかわらず、営業マンの行き来が少なく活気がないように思われる。また、街の人たちにも元気が感じられない。		
		クリーニング店	7月からの猛暑で売上げがほとんどない状況であったが、今月も客足が伸びていない。		
企業関連	製造業（金属製品）	受注量が半減してしまった。得意先に注文を依頼しても、各社あまりない様子である。			

2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	地元の大企業が従業員を増員する予定である。
		スーパー	量より質への志向傾向から、企業の対応にもよるが、購買意欲は向上している。人の動きも活発になりだしたようで、パートの希望職種業態へのトラバユがあ
		小売業（酒類）	地元大企業が今年は元気を出すようにと各事業所にて約10年ぶりに運動会を開催する予定である。
		スナック	住宅を建てる人が若干増加してきたように思われる。
		居酒屋	年末商戦に期待が持てる。
		旅行代理店	秋は旅行シーズンであり良くなることが見込まれる。しかしながら、団体旅行が年々減少傾向にあることに変わりはない。企業の業績が良くならないかぎり、職場旅行も増加しないと思われる。
		タクシー運転手	これ以上悪くなる理由が見当たらない。企業関係の明るい話題も多く、期待している。
	企業関連	水産業関係者	大型船はサバやイワシの出現があり期待が持てる。また、小型船は本年秋シラスの出現が予想されるため、全体的に好転すると思われる。
		製造業（電気機械器具）	主力製品の受注が好調で、毎日納期に追われている状況であり、人員補充及び設備投資を実施中である。
		製造業（電気機械器具）	大手企業が良くなってきているため少しずつ良くなっていくと思われるが、原油価格がどうなるか心配である。
		非製造業（不動産業）	地価の下落幅は拡大傾向にあるが、分譲マンション事業を中心に不動産取引は動いていくと思われる。ただし、物件に対する客の目もさらに厳しくなり、物件の差別化もさらに進むと思われる。
		非製造業（情報処理サービス）	年度末が近づくとつれ、受注件数等が徐々に増加してくると予想される。
	雇用関連	人材派遣業	取引先を見ても増設や設備投資が決まっており、今後さらなる増員の依頼があると思われる。
		求人広告	職に就く人が増加すれば、個人消費も拡大するのではないかとと思われる。
変わらない	家計関連	コンビニエンスストア	客数は減少傾向にあるが、多少価格が高くても良い商品は売れており、購買意欲に大きな変化はないと思われる。
		スーパー	特に変化する要因が見当たらない。
		衣料品専門店	景気が上向いているという実感が無い。
		農産物直売所	1人当たりの買上金額はほとんど変わらないと思われる。
		ガソリンスタンド	石油業界は現状のままのように思われる。ただし、一般製造業は原材料の値上がり分をどう製品価格に転嫁していくかが課題であると思われる。
		小売業（靴製品）	良くなる話も悪くなる話も聞かれない。
		居酒屋	多少売上げの変動はあるにせよ、継続的な要因は見当たらず、現状のままで推移すると思われる。
		観光型ホテル	良くなる兆候が見られず、予約状況も良いとは言えない。
		観光型ホテル	行楽シーズンを控え増収に期待したい。依然低価格志向にあるものの、魅力のある商品を提供すれば集客できると思われる。
		観光型ホテル	予約状況が可もなく不可もなくというところである。平日の利用が増加すれば回復すると思われる。
		タクシー運転手	ボーナス時期になるが、昨年同様ボーナス効果は望めない。
		ゴルフ場	石油価格問題、国際テロの問題等々明るい材料に乏しく、国内政治・政策にも妙味が感じられない。
		パチンコ店	周辺企業の景気が良くなりきれいなと感じられる。
		ゲームセンター	携帯電話関連への消費が優先し、なかなかアミューズメントまで出費が回ってこない。また、業界として新たな顧客を開拓するような新しい商品群が出現する可能性が低い。
		レジャー施設	何かイベントを催さない限り、入場者数は横這いになると思われる。
		理・美容店	今の状態で我慢していけば少しは良くなると思われるが、浮き沈みがあるためそれほど変化は見込まれない。
		理・美容店	低調のまま推移すると思われる。
		クリーニング店	景気の良い話が聞かれない。
		住宅販売会社	住宅ローン控除の期限が切れるため、駆け込み需要も見込まれず、変化は期待できない。
	企業関連	製造業（食品）	製品製造原価が値上がりしている一方、販売単価は下落し続けているため、利益の出にくい体質となってきた。
		製造業（一般機械器具）	それほど好不調の波はないと思われる。
		製造業（一般機械器具）	受注も少なく、作業量は3か月先も変わらないと思われる。
		製造業（電気機械器具）	しばらくは現状のままで推移すると思われる。
製造業（電気機械器具）		受注量に大きな好転は期待できない。	
製造業（電気機械器具）		業績予想が今期と大きく変わらない。	
		製造業（輸送用機械器具）	海外への作業シフト傾向及び価格競争の激化が継続すると思われる。また、新製品を試作中であるが、直接的な作業拡大には至っていない。

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業関連	非製造業（建設業）	良い企業と悪い企業の差がますます広がっている現状を見ると、全体的な上向きの変化は期待できない。
		非製造業（建設業）	市町村合併により工事・土地・建築と動きがあると思われるが、すぐには動かないのではないかと。
		非製造業（金融業）	大手企業及び第一次下請企業においては部門的に好調な傾向は見られるものの、総体的に見れば、3か月という短期間では現状のまま推移すると思われる。
	雇用関連	学校就業関係者	求人数は増加しているが、今の時期が企業の採用試験の時期であるためだと思われる。
		求人開拓員	求人は増加傾向にあるが、特定業種・特定職種（デジタルカメラ関連、NC基盤、溶接、医療関連）に偏っており、全体的な変化はまだまだ感じられない。
		公共職業安定所	企業側は依然として厳しい見方を崩していない。業務量の増減は多少あるものの、安定感はない。
やや悪くなっている	家計関連	小売業（土産物）	ガソリン代の値上げや台風の影響により、休日に遠出することが少ない。また、包装材の値上げで利益がますます減少すると思われる。
		タクシー運転手	飲食店の客も少なく、また、運転代行に仕事を取られているため、営業回数が減少しており、先行きが不安である。
		レジャー施設	11月には新紙幣対応のため設備投資をする企業が増加し、そのため冬のボーナスをカットする企業が出てくるのではないかとと思われる。
	企業関連	林業関係者	客や知人の話から判断すると、製材品も安く右肩上がりは望めない。
製造業（電気機械器具）		主力製品のモデルチェンジにより、当社の製品が使用されなくなる。	
悪くなっている	家計関連	タクシー運転手	利用客が減少しており、ここ数か月は待機時間が1.5～2時間と今までにない長さとなっている。

(2) 県央地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	取引先の販売員との会話も、否定的な話より、市町村合併による新たな需要の拡大など前向きな考えや意見が多くなったように思われる。	
		家電販売店	地上波デジタル放送の開始に伴いAV商品への客の関心が高く、商品の付加価値についての質問が多く出ている。	
		農産物直売所	買上点数が増加してきており、来月以降も良い数字を残せそうである。	
		都市型ホテル	年末の忘年会シーズンになるため、例年同様利用が増加することが見込まれる。	
		旅行代理店	慰安旅行型の団体の話が出てきた。	
		タクシー運転手	利用客から「年末を控え緩やかに上昇しているのではないかと」との声が聞かれ	
		観光名所	秋の行楽シーズンということもあり予約も順調に入ってきている。天気の良い長期予報も例年並で晴れの日が多いとのことであり、また、目玉となる企画展・イベントも控えているため、夏の不振を取り返したい。	
	企業関連	製造業（食品）	季節変動の範囲内ではあるだろうが、過去3か月よりは上昇すると思われる。	
		製造業（土石製品）	全体的に景気は回復基調になってきているが、まだ様子を見ている人の方が多いように感じられる。本格的に回復するのはまだ先になると思われる。	
		製造業（一般機械器具）	下期に引合い件数が減少し受注に影響が出る傾向にあるが、このことを考慮しても、良い状態をキープできると思われる。	
		非製造業（建設業）	不透明感があるわけではないので、回復に向かうように思われる。	
		非製造業（金融業）	年末を控え消費が拡大すると思われる。また、事業者の売上げ・工事高の増加が見込まれる。	
		雇用関連	人材派遣業	この先も製造業を中心に受注量の増加が見込まれる。
			求人広告	9月の状況及び例年の動きから、年末に向けて求人数は増加すると思われる。
変わらない	家計関連	百貨店、総合スーパー	これといった大きなプラス・マイナス要因が見当たらない。客の動向を見ても、生活は現状のままであると思われる。	
		百貨店、総合スーパー	商品価値に理解が得られたものが中心に売れ、得られないものは売れないという現状に変化はないと思われる。	
		スーパー	税込み価格表示以降の客単価の下落が止まらない現状に変化はないと思われる。	
		専門スーパー	ヒット商品があるわけでもなく、必要に応じて、必要な物を、必要な数だけ購入するという傾向が強く、景気の変動は考えられない。	
		スーパー	客の一回当たりの買上金額が8か月連続で前年を下回っている。	
		専門スーパー	石油価格の高騰が現在はガソリンや灯油関係のみに影響しているが、今後他の石油関連品の値上げにつながった場合、多少の悪化も考えられる。しかしながら、そう大きくは変わらないと思われる。	
		レストラン	現状より悪くならないと思われるが、好転は難しいのではないかと。	
		観光型ホテル	季節料理（アンコウ）での宴会、会議を兼ねた宿泊等の予約が入っている。	
		タクシー運転手	現状が悪すぎるため、これ以上の悪化は考えられない。	
		タクシー運転手	景気は良くなってきているとの話が出るが、タクシー業界では感じられない。リストラ、経費節減等々のツケがタクシー業界全体に及んでいる。	
		ドライブイン	10～11月は紅葉シーズンのため予約集客は増加しているが、客単価が落込んでいるため全体的には大きく伸びる要素がない。	
		パチンコ店	業界の内規変更により上向きになる可能性も感じられるが、今のところ特出した動きは見られない。	
		ゲームセンター	原油価格の高騰によりガソリン等関連製品の値上げが実施されていくと、消費動向は今よりも良くなっていくとは考えにくい。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	レジャー施設	例年シーズンイン（夏）に新規申込者が参入し、シーズンオフ（冬）に艇を手放したいとの申し出があるが、そのような声が聞かれない。
		建築設計事務所	大企業の景気は上向しているかもしれないが、全体の多数を占める中小企業は依然不景気感が強い。
	企業関連	製造業（出版・印刷業）	例年夏以降の受注は春季と比べると低調である。官公需の動きも活発な時期ではないため、特別スポット的なものがない限り景気は変わらないと思われる。
		製造業（出版・印刷業）	これといった回復要素が見当たらず、先行きが不透明である。
		製造業（金属製品）	客先担当者の話が安定していない。
		非製造業（輸送業）	年末に向け貨物は活発に動くことが見込まれるが、リストラに伴う在庫の圧縮等も相変わらず続いており、大きくは変わらないと思われる。また、原油を始め原材料の値上がり分を製品価格に転嫁できないでいる業種が見受けられる。
	雇用関連	非製造業（情報処理サービス）	景気の先行き不透明感が根強く残っている。
		雇用相談員	原油高や鉄鋼関連の材料高など、利幅の縮小から急激な景気の上昇があるとは思われない。
		公共職業安定所	有効求人倍率が対前年同月比17か月連続で改善しており雇用情勢にも明るさが見られるが、依然として閉鎖・倒産・事業縮小等をする事業所が出てきている。
学校就業担当者		求人が増加傾向が見られない。学生の就職は昨年並みである。	
やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	一般に景気が上向していると言われているが、身の回りの景気は更に悪くなっているように思われる。
		自動車販売店	9月にガソリンの斉値上げがあったが、他の石油製品の価格が上昇すると消費の伸びが悪くなるように思われる。
		ファミリーレストラン	原油価格の高騰により、消費生活に影響が出てくると思われる。
		都市型ホテル	税金や年金保険料等の負担が今後少しずつ増加し、消費が控えられると思われ
		ドライブイン	団体客の食事の単価が低下してきているように感じられる。
		ゴルフ場	「平日特別優待券」が9月末で終了するため、来場者数の落込みが予想される。客からの問合せが多く、「平日特別優待券」に替わるものを考案中である。
		レジャー施設	重油やガソリン等の値上げの影響が他の石油関連製品にまで及ぶことが懸念され、消費が落ち込むことが予想される。
	企業関連	非製造業（広告代理業）	広告料金の支払遅延が増加しており、経営資金が逼迫している企業との継続的な取引にリスクを感じる。年末商戦への広告投入数は昨年並みであるが、販促規模の縮小や、製作物仕様の簡素化が昨年より多く見られる。
悪くなっている	家計関連	理・美容店	何代も続いている店でも、まだまだ閉店するところが出てくると思われる。同業者からはあきらめの声も聞かれる。

(3) 鹿行地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	大企業が好調で全体の空気は明るいため、多少は良くなるのではないかと思われ
		スーパー	新規の客が増加している。また、地域的に別荘等が多いため、客が増加する可能性がある。
		自動車販売店	来店客数が増加してきており、今後上向いてくると思われる。
		専門スーパー	ボーナスの増額が見込まれるため、例年よりも売上げが伸びると思われる。
		タクシー運転手	10月～12月は例年良くなる傾向にある。
		タクシー運転手	忘年会シーズンであり、期待が持てる。
		洋食食堂	駐車場に新しい看板を設置し、店内にはタペストリー風のポスターを飾った。効果のほどは数値化できないが、手ごたえは感じられる。
		理・美容店	メニューの細分化による客単価の上昇を考えている。
		クリーニング店	一時的なものではあるが、年末にかけての飛び込みの客が見込まれる。
		サービス業	客先で設備投資や開発・改善・試験への取組みが拡大しているようであり、注文も増加しているようである。一方、客からの値引き交渉も激しく、各社とも厳しい状況がうかがえるため、景気は今より少し良くなる程度だと思われる。
	企業関連	農業関係者	年末の需要期となるが、台風の被害を受けた九州、四国及び東北地方からの品物が見込まれず、供給が少なくなる。
		製造業（化学工業）	原油価格の高騰がまだ続くと思われるため、原料であるナフサの価格も高くなるのではないかと思われる。
		製造業（食品）	年末に向けて新商品を開発中である。
雇用関連	製造業（金属製品）	鉄鉱石、原料炭、合金鉄などの原料価格が一段と高くなると思われる。円高圧迫だが、後半にかけて価格転嫁が浸透してくると思われる。	
	製造業（飼料製造）	原材料価格が下落し落ち着きを見せ始めているため、販売面での逆ざや状況は改善される見通しである。	
	非製造業（不動産業）	大口の業務用地の注文等が数件出てきた。	
	民間職業紹介業	求人件数及び求職者のマッチングを増加できると思われる。	
変わらない	家計関連	学校就業関係者	自衛官の募集が増加しており、希望する人も多い。
		商店街代表者	業界としては稼ぎ時であるが、少子化傾向が続く中で新たな需要を開拓しなければ売上げの伸びは期待できない
		スーパー	チラシ内容で流動する客をいかに固定客にするかが課題となっている。安全に、安心して買物ができる環境設備の充実が問われている。

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	小売業（酒類）	今冬が平年並みの気候であれば、消費者の購買意欲も上昇してきているため、ある程度の予算達成は可能であると思われる。
		スーパー	二極化の状況が続くと思われる。
		小売業（薬品店）	地方の景気が回復するのは半年～1年後のように感じられる。
		スナック	年末や正月を迎えるとなると出費を抑えるのではないかとと思われる。
		小売業（菓子販売店）	良くなる要素が見当たらない。
		タクシー運転手	ショッピングセンターの買物客の増加が見込まれない。また、夜間の利用客も少ない。
		パチンコ店	多少業績がアップしてきており、今後3か月は大きな環境の変化がない限り安定して推移すると思われる。
		日本料理店	接待、歓送迎会、個人のお祝い等の予約がはっきりしてこない。
		クリーニング店	企業関係は変わらないと思われるが、農業関係は少し悪くなると思われる。これから収穫のさつまいもの価格も安いようである。
		室内装飾業	良い話が聞かれず、周りを見てもこれはという物件が見受けられない。
		住宅販売会社	金利が上昇と低下を繰り返しており、先が読めない。
		ドライブイン	年末になれば売上げは増加すると思われるが、目立った変化はないと思われる。
	企業関連	製造業（印刷業）	景気の変動要因が見当たらない。
		製造業（窯業・土石製品）	大手鉄鋼業は設備投資等も含め今後も伸びていくと思われるが、当社においてはゼネコン関連、公共事業等の急激な好転が考えられず、期待が持てない。同業他社との価格競争や輸送コストの上昇等の悪化要素はまだまだ続くと思われる。
		製造業（電気機械器具）	一時的な売上増がないとは言えないが、継続性は期待できない。
非製造業（住宅設備施工業）		見積り物件が減少してきているものの、それほど変わりはないと思われる。	
非製造業（金融業）		失業者等が減少しておらず、景気の回復は見込まれない。	
雇用関連	人材派遣業	客先企業からのヒアリング状況からも現状推移との見方が多い。	
	公共職業安定所	求人数は増加しているものの求人条件が厳しく、また、パートや契約社員など正規雇用以外の求人が多く、就職数が増加しない。回復傾向にあるとは思われるが、短期間では目立った変化は見込まれない。	
	求人開拓員	良くなる材料がなく、3か月という短期間では大きな変化は期待できない。	
やや悪くなっている	家計関連	小売業（金物店）	米価が今年の半値くらいとのことだが、地域柄農家への依存度が高いため、景気への悪影響が懸念される。
		商店街代表者	消費者の収益減により買い控えが起き、物品の販売が減少すると思われる。
		書店	企業の業務用品購入が減少している。通販やディスカウント店、100円ショップ等を利用しているためだと思われる。
		観光型ホテル	予約が少ない。
		住宅販売会社	住宅ローン控除が来年入居者分から縮小されるため、客の購入意欲が低下すると思われる。
	企業関連	製造業（化学工業）	原料価格は先行き不透明であるが、景気が悪くなるとは考えにくい。
非製造業（保険業）		地域柄兼業農家が多いが、米価が安いと収入が減少している。昨年より1俵当たり1万円程度安くなっている。	
悪くなっている	家計関連	観光名所職員	寒くなるにしたがい、観光客はますます遠のくと思われる。
		割烹料理店	大企業関係の接待、食事会等が一段と落ち込むと思われる。また、客単価も低下してきている。

(4) 県南地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	企業関連	製造業（食品）	12月は暮れのギフト期にあたるが、当社では中元や歳暮の時期の売上げは通常の3倍くらいになる。ただし、前年比では変わらないと思われる。
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	季節的にパンの売上げが伸びる時期である。
		自動車販売店	客との話の中で面白い話題がよく聞かれるようになった。
		農産物直売所	客数が伸びているため、野菜の価格が安定すれば良くなると思われる。
		洋食食堂	同業者からも相変わらず厳しいとの声が聞かれるが、大企業の景気が回復しており、期待が持てる。
		洋食食堂	例年11月～1月にかけては来客数と客単価が伸びる傾向にある。忘年会・クリスマス・新年会等パーティーが増加すればさらなる売上げアップが見込まれる。
		都市型ホテル	婚礼・宴会の予約がある程度入ってきており、宿泊に関しても良くなっていくように思われる。
	企業関連	製造業（食品）	年末に向け多少動きが出てくると思われる。
		製造業（一般印刷業）	地元で選挙があり、期待が持てる。
非製造業（建設業）		見積りが増加しており、かなりの数の成約が見込まれる。見通しはかなり明る	
雇用関連	非製造業（金融業）	来年秋のつくばエクスプレスの開通に向け、今後も良くなっていくと思われる。	
	求人広告	年末に向け求人の増加が見込まれる。	
	変わらない	家計関連	スーパー
スーパー	スーパー	客数・客単価が増加する要因がない。	
	スーパー	悪くなるという不安感は薄らいでいるが、明るさが感じられるわけでもない。客数の伸びで売上が伸びているだけであり、一品単価及び買上点数の上昇・増加は見込まれない。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	コンビニエンスストア	客の購買意欲が変わるような政府の景気刺激策がなければ大きな売上げの伸びは期待できない。
		寿司店	客から世界経済が不安定で燃料やガソリンなどの価格が上昇し、材料費が値上がりするとの声が聞かれる。
		和食食堂	特に飲食業界では競合店の増加傾向があり、この先どうなるかわからない。
		都市型ホテル	某金融機関の賞与カットの報道により他業種も影響を受けられるが、暮れの年末商戦でも景気は変わらないと思われる。
		旅行代理店	イベントや天候により左右されやすいため、先が見えない。スキーツアーの参加客は減少傾向にあり、また低価格志向にあるため、販売量が増加しないかぎり売上げは減少すると思われる。
		旅行代理店	連休が少ない。また、海外情勢にも左右されると思われる。
		タクシー運転手	駅での乗り込み、電話の本数とも増加する可能性が感じられない。
		タクシー運転手	営業回数及び売上げの増加が見込まれない。
		タクシー運転手	景気が良くなっているとの報道があるが、よほど良くなれないかぎりタクシーの利用には結びつかないと思われる。
		ゴルフ場	鉄鋼や輸送など一部好況の業種を除き、安定して推移すると思われる。
		ゴルフ場	良くなる材料も悪くなる材料も見つからない。
		パチンコ店	道路や建物等の工事現場が見られないことから、景気は変わらないと思われる。
		ゲームセンター	良くなるか悪くなるかの判断は難しいが、それほど生活ベースで変化はないと思われる。消費する内容が変わってきていることは事実であるが、大きな買い控えや消費控えはないと思われる。
	住宅販売会社	金利等の先行きが不透明である。	
	企業関連	農業関係者	農家の所得増加につながる材料がない。
		製造業（食品）	期待感強いが、原油価格の高騰が懸念される。
		製造業（食品）	中国の急成長等、海外向けで需要が伸びている話も聞かれるが、内需が伸びるとは考えがたい。
		製造業（窯業・土石製品）	石油関連製品及び鉄鋼関連製品の値上げ要求はあるが、すぐには大きな影響は出ないと思われる。
		製造業（コンクリート製造業）	企業の業績の良化はリストラやコストダウンによる回復であり、実質的な回復ではない。企業の実質的な回復により、個人の収入増が進めば良くなっていくと思われる。
		非製造業（建設業）	外国での業績は当分上向きの感があるが、国内でのものづくりはあまり変わらないと思われる。
非製造業（輸送業）		今後10～12月にかけて貨物の荷動きに期待したいが、生産した貨物をなるべく外部へ出さずに工場内で管理する傾向が見受けられる。いかに情報を先取りできるか、早目の対応に迫られそうである。	
雇用関連	人材派遣業	顧客先全般で増員等人材登用が一巡し、一服感がある。また、早くもブームが去り、減産となっている顧客先も出始めている。	
	公共職業安定所	原油価格の高騰や、猛暑・アテネオリンピック効果の反動が雇用面に影響することが懸念される。	
	学校就業関係者	良くなる分野もあると思われるが、全体的には急速な回復は見込まれない。	
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	より安いものを購入する傾向が強まっている。
		タクシー運転手	運転代行に仕事がとられているのか、夜の飲食店関係の仕事が減少している。
		レジャー施設	ガソリンの値上がりによりレジャーを控える傾向が強まるとと思われる。
	企業関連	製造業（金属製品）	今後さらに組立部分の生産が海外にシフトすると思われる。
		非製造業（建設業）	受注が減少している。
悪くなっている	家計関連	ガソリンスタンド	この先も原油価格の動向は不透明であり、ますます厳しくなると思われる。1年間で淘汰されるサービスステーションはかなりの数になると思われる。
		タクシー運転手	タクシーの利用客の増加は考えられない。
	企業関連	製造業（食品）	歳暮商品の動きが現段階では減少傾向にある。特に県内向けが不振である。

(5) 県西地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	都市型ホテル	年末のため忘年会等での利用が見込まれる。
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	客から仕事が忙しくなってきたとの声が多く聞かれる。
		都市型ホテル	宴会等は厳しい状態が続くと思われるが、年末にかけての予約等を見ると、少しではあるが明るい見込みが感じられる。
		ゴルフ場	オープンコンペを中心に予約が動き出している。組数の多い社内コンペでは価格交渉もシビアになってきている。
	企業関連	製造業（印刷業）	知人の建設業者で受注が増加している。また、得意先のカーディーラーでも契約が増加しているようである。建設業と車の需要増は他の産業に大きな相乗効果を与えられると思われるため、期待が持てる。
		製造業（電気機械器具）	年末商戦等の話もあり、ここ1～2か月は上向きと思われる。
雇用関連	非製造業（不動産業）	賃貸・売買とも来客数が増加傾向にあり、期待が持てる。	
雇用関連	人材派遣業	例年10～12月は仕事が多くなる。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや良くなっている	雇用関連	求人広告	年末にかけて突発的な仕事が増加し、求人募集も増加すると思われる。
		学校就業関係者	失業者対象の職業訓練の募集人員が減少している。
変わらない	家計関連	スーパー	客単価が下げ止まらない。チラシ特売を打っても、以前ほど売上高に大きな変化が見られないため、「安いから買う」という客の購買意欲が薄れてきていると感じられる。
		スーパー	中小企業の業績が大きく変わらないと景気回復は難しいと思われる。
		家電販売店	依然として価格による商品選びが多いため、単価の低下が続くと思われる。
		自動車販売店	残業が少なくなり収入が減少したという話が聞かれる。また、車検等も安い店に流れ、在庫台数も減少している。
		専門スーパー	消費が拡大する要因が見当たらない。
		ガソリンスタンド	消費者に多少の買い控えが見られると思われるが、堅調に推移すると思われる。ただし、運送業者等のコスト負担が増加し、体力の弱い業者が苦しくなることが懸念される。
		洋食食堂	週末は好調であるため良くなっている感じもするが、平日の来客数が伸びていないため、しばらくはこのままの状態が続くと思われる。
		寿司店	求人の広告が多いが、年齢制限のあるものや人材派遣会社のものが多く、先々が安定していない。
		和食食堂	経済環境が確実に良くなっているとは感じられない。若い人たちはまだ自粛していないが、中高年者は自粛している。
		一般食堂	年末は宴会などで多少は良くなると思うが、3か月の売上の集計に変化はないと思われる。
		タクシー運転手	年末に向けて期待したいが、毎年期待外れである。
		タクシー運転手	年末だからといって急激に回復するとは思われない。
		タクシー運転手	ここ数年、年末になると忙しくなることを見込んで、会社でも年末年始ダイヤなどいろいろと考えてはいるものの、さほど動きが見られていない。
		タクシー運転手	地元客・ビジネス客ともに低迷しているものの、減少しているわけでもないため、特別悪化しそうな気配は感じられない。
		ドライブイン	ここ数か月の売上状況から見て、今後も横這いの状態が続くと思われる。
		ゴルフ場	コンペシーズンになるが、その分料金を割引いて集客するため、売上げは変わらないと思われる。
		ゲームセンター	売上げの流れに変化が感じられないため、今後の景気も変わらないと思われる。
		レジャー施設	年末商戦がスタートするが、消費者が節約モードになるのか、売る側のアイデアが上回り購買意欲を掻き立てるのか、いずれにせよ所得の安定がポイントとなるとと思われる。
		理・美容店	これから寒くなるためこれ以上の客数の増加は期待できない。一度落込んだ景気の回復はあまり望めないように思われる。
		住宅販売会社	ローン減税の対象となる年内入居も今となっては不可能であり、減税の件を知っていても客の反応は鈍い。
	企業関連	製造業（食品）	年末商戦において販売実績が爆発的に伸びるような商品群がない。定番の商品を中心にコツコツと実績を重ねるだけである。
		製造業（食品）	原油価格の高騰による原材料高は当分続くと思われる。
		製造業（金属製品）	先行きの仕事が少ない。
		製造業（印刷業）	メーカーから紙の値上げが発表されたが、取引価格に値上げ分を反映させるのは難しいと思われる。
		非製造業（建設業）	まだ先が見えない。客は大型店舗やファミリーレストランに集中しており、小売店や小規模な飲食店は次々に店を閉めている。
		非製造業（金融業）	景気が変化する兆しが見られない。
		非製造業（広告業）	これから年度末まで忙しい時期になるが、売上げの増加は見込まれず、例年と同程度になると思われる。
	雇用関連	公共職業安定所	建設機械や製造業の一部では、依然として業績は好転している。しかし、中国での需要増加といった外的要因が好転の原因であることを考えれば、いつまで続くかは不明であり、予断を許さないとと思われる。
やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	今年は米の価格が安くなりそうであり、農家の収入減が予想される。
		衣料品専門店	昨年はシーズンの切替えにより多少の変動があったが、今年は9月に入っても非常に厳しい状態である。また、安価な商品（小物）等にも買いが走っており、洋服に対する金の使い方に変化が感じられる。
		理・美容店	ガソリンの値上げにより車での行動を控えるようになると思われるが、車が主な交通手段であるこの地域には厳しい条件であり、当然来店サイクルが更に長くなるのではないかとと思われる。
	企業関連	農業関係者	米価の下落、稲作対策事業等の廃止などにより、今後ますます産地間競争が激化すると思われる。米作農家には厳しい年である。
		製造業（石材業）	石材業にとって例年11月～1月は暇な時期である。
		製造業（化学工業）	台湾等の半導体関連顧客の受注の動きが良くない。また、国内ではデジタル家電関連の受注もいまひとつ伸びがない。
悪くなっている	家計関連	建築設計事務所	建設意欲が感じられず、また具体的な問合せも減少している。
	企業関連	製造業（石材業）	石材業界にとって12月、1月は仕事が暇な月である。皆販路を業者から個人へ転換して頑張っている。

3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	商店街代表者	製造工場の従業員増員に伴い、臨時の在宅転用やアパートの借用が増加しているようである。
	スーパー	衣料業界の客入りが目立つ。また、大型ショッピングモールへの客集中化も見られ、個々の商店には苦しい時期だと思われる。食品では、生鮮を購入する店とその他の商品を購入する店とを消費者がうまく使い分けている。
	コンビニエンスストア	衝動買いをする客が増加しており、試食や声掛け販売を積極的に実施することで客単価や買上点数に変化が出てきている。
	スーパー	客は商品の値段に対して敏感になってきている。少しでも安価な商品を求める傾向が強まってきていると思われる。
	衣料品専門店	つい最近、取引先が営業継続の目処が立たずに自己破産した。
	家電販売店	地域量販店は少ない客を奪い合っている状態である。
	自動車販売店	市町村の合併が近々あるため、今後どうなるかわからない。
	農産物直売所	以前と比較して忙しいとの声が企業関係者（パートタイマー）から聞かれる。
	小売業（酒類）	大型店、総合スーパーの進出が目立ち、個人小売業の経営が一段と厳しくなっている。
	小売業（靴製品）	今年は米が豊作で昨年と比べると価格が安いので、減収となる可能性があり不安である。
	卸売業	大型店の出店が増加してきている。ひとつ大型店ができると、他の店も周りに集まり、ひとつのまちとなるため、既存の商店がさびれてしまっている。
	レストラン	街の飲食店は、客が昼は入るが夜は入らない。昼は利益率が低いので、夜の客が欲しい。
	居酒屋	地元企業のリストラもある程度落ち着き、短期的には景気の好転は難しいと思われるが、現状で底打ちであると感じられる。
	スナック	地元で明るい話題がない。
	食堂	個人経営の店が店主の高齢化のために店をたたんでいる。
	観光型ホテル	株価が一時上昇したが再び下落し、低水準で推移している。百貨店やサービス業も横這いであり、消費者の意欲が感じられない。
	観光型ホテル	景気は改善の動きが見られるとの報道があるが、雇用不安もあり、まだまだ各個人への景気回復は感じられない。社会情勢不安も客足の伸びに影響していると思われる。
	観光型ホテル	燃料関係の価格が高騰している。
	旅行代理店	各企業とも従業員数の減少が続き、職場旅行等の参加人数が相変わらず少ない。そのため一団体当たりの取扱額が低下しており、売上減の大きな要因となっている。
	タクシー運転手	国内で事故・災害・天災があると、大企業が関連していることが多く、そのたびに要請があり500～800kmくらいを一夜で走行することがある。
	タクシー運転手	夜の飲食店等からの利用客が減少しており、夜の代行車の利用客が増加しているため、タクシーの利用客が減少している。また、平日の病院、買物、営業等の利用客が減少しているように思われる。
	ドライブイン	石油製品の原価上昇に伴う店頭価格の上昇により、いろいろなどころで影響が出ているようである。
	ゴルフ場	バブル景気の清算が、企業・業種間で急速に進んでいるように思われる。また、優勝劣敗がはっきりしてきており、一般の人はそのひどさに鈍感になりきっている。社会・経済全般に正念場にさしかかっており、今しばらく大きな飛躍は期待できない。
	パチンコ店	若干は景気が良くなってきているという話が聞かれるが、まだ本格的ではない。新規雇用までには至らず、残業でまかなっている状態である。
	ゲームセンター	県北からいわきまで、常磐線駅前の商店街の閉鎖が続いている。かといって郊外型店舗の売上げが増加に転じているわけでもない。
	レジャー施設	周辺地域に新規出店店舗が増加したが、飲食店のみであり、娯楽的店舗は逆に減少している。
レジャー施設	仕事帰りに外食をしても、店内がガラガラのところが増加している。特に駅周辺は閉店している店が目立っている。	
理・美容店	国道沿いに大型電気店、大型パチンコ店、飲食店等が相次いでオープンした。	
理・美容店	企業の休みが続き、近所のスーパーの駐車場は満車状態であった。	
クリーニング店	ガソリンと軽油の単価が上がったため、車両の維持コストが上昇し、利益を圧迫している。	
企業関連	林業関係者	客は100円ショップ等を利用し余計な出費はしていないように思われる。
	水産業関係者	漁業者や加工業者、冷凍業者に対し、金融機関の締付けが厳しく、貸出しを制限している。
	製造業（電気機械器具）	二度のガソリンの値上げ（6月、9月）に対して通勤交通費の見直しを5円単位で実施した。以前は10円刻みで対応していたが、現在はそれが困難である。
	製造業（電気機械器具）	原油価格の高騰により、非鉄金属の仕入価格が上昇し、入荷に影響が出ることが懸念される。
	製造業（輸送用機械器具）	市況素材（銅、アルミ、鉄）や原油価格の高騰により、固定費が圧迫されている。
	製造業（電気機械器具）	材料や部品等の海外（中国）調産が行われているが、品質や保管等管理面で見えないコストが発生しているようである。
	非製造業（金融業）	資材関連業種の動きがここにきて活発である。
雇用関連	非製造業（不動産業）	他県に本社のある分譲マンション業者が土地を探している・土地を取得しているという情報がある。また、街中のデパートの閉店など、市街地の空洞化も相変わらず進行している。
	学校就業関係者	求人をする製造業は、特殊な技術を持っている企業が多い。特殊な技術を持たない企業は受注量が少ないためか求人が少ない。
	求人開拓員	10月から地元の工場で電子レンジ等の生産が稼動するため人手が必要になるが、そのほとんどを人材派遣に頼っている。一見景気が上昇しているように感じられるが、下請け企業に仕事が出なくなるため、実際のところは半年先にならないとわからない。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	商店街代表者	「景気は決して回復したとは言えないが必要な物は売れており、良い物はそれなりに評価されている。長引く不況が逆にユーザーの買う物に対する目を厳しくした。売る側もより良い商品を提供すればそれなりに評価してもらえ。」とある客が言っていたが、その通りだと実感した。
	商店街代表者	本当に必要な物、かなりのお買得品以外は物が動かない。
	百貨店、総合スーパー	法人関連は相変わらず厳しい状況である。また、価格あるいは商品価値に対する意識が高くなっていると思われる。
	百貨店、総合スーパー	高価なものでもステータスを感じるものなら都内まで出向いたり取り寄せをしても手に入れようとする傾向が強くと感じられる。
	スーパー	客単価及び一品単価が上がらない。また、日・祝祭日の客が複合施設や大型店舗に引っ張られている。
	スーパー	安売りの日に集中する傾向がさらに強くなってきている。
	専門スーパー	価格での訴求を図っているのは家電・OA関連の販売店だけになってきており、他の業界は個性を重視した売場の差別化を図るようになってきていると感じられる。
	自動車販売店	冬の灯油価格を気にしている人が見られる。
	スーパー	ホームレスが増加しているようである。また、店内万引きが増加している。
	専門スーパー	地域柄農家の来店が多いが、皆「米が豊作で安価である」と口にする。秋から冬にかけての肥料の購入に影響が出ると思われる。
	観光型ホテル	売店での購買力、客単価が低下してきている。県産品（メロン、菓子類）の売れ行きは好調である。
	タクシー運転手	新規参入企業が10月から営業を開始する。ある企業より運転手が10名転職している。現状でも多すぎるのに、どうして国は認可してしまうのか。
	ドライブイン	10月に行われる青年会議所の全国大会のようなイベントを積極的に誘致することにより、経済が活性化していくと思われる。
	観光名所	この夏の不振は猛暑の影響が大きかった。高齢者の客が少なかったように感じられる。
	ゴルフ場	プレー単価の問合せ、値下交渉等が引き続き増加傾向にある。
	パチンコ店	ガソリン代が値上がりしている。
	レジャー施設	県外からの問合せが増加してきている。
	理・美容店	客から「このあたりは本当に寂しくなった」、「買物に出てくる機会がなくなった」等の声が聞かれる。
	理・美容店	飲食店は良いようであるが、その他はだめである。来店サイクルが4～6か月に1回という人も増加している。
	建築設計事務所	減税の見直しが取り沙汰され始めたが、景気に水を差す恐れがあり不安である。
企業関連	農業関係者	本年産の米の価格が前年の約半値になっており、その影響が懸念される。
	製造業（食品）	スーパーに格安商品が多くなっているような気がする。
	製造業（食品）	「夏は暑いのが良い」とはいえ暑すぎるのも問題で、消費する気力も暑さの前に萎えているように思われる。
	製造業（一般機械器具）	大物製品の引合いが前年同期比で増加しており、受注も好調である。国内製造業の復活が感じられる。また、設備投資が活発になっていると言われているが、そのとおりであると思
	非製造業（建設業）	ダンピング業者による傷跡が深い。客にとってはそれが当たり前となってしまっているため、建設業界は非常に厳しい状況である。また、福祉施設関係の補助金事業についても、支払い条件が悪く、資金繰りを悪化させている。
	非製造業（輸送業）	夏休みだったためか家族連れで外食をする姿が多く見られた。リーズナブルで美味しい店で特に顕著であった。
	非製造業（広告代理業）	水戸駅南口の商業施設の増加に、大きな期待を寄せている。
	非製造業（コンサルタント業）	本物志向の取組み、好きだから取り組むやり方、自分の生活や人生を豊かにする仕事の取組みが、新たなビジネスを生み出している。
雇用関連	雇用相談員	一般的なものづくりではなく、特長のある技術力のある企業は利幅も高い。また、老人介護施設の建設が目立っており関連求人も増加しているが、雇用のミスマッチが続いている。
	求人広告	大型店や新規店舗のオープンが予定されており、景気上昇につながることを期待してい
	公共職業安定所	猛暑及びオリンピックのため、エアコン等の季節商品や液晶テレビ・DVD等の販売が好調となり、大型電気店より求人があった。また、介護保険法の制定に伴う事業者の新規参入により、介護職や看護師等の求人が増加している。しかしながら学卒の求人倍率は0.56倍と低

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	小売業(金物店)	消費者の域外流出及び大型店志向により、旧商店街が空洞化状態にある。
	商店街代表者	閉店するスーパーがある一方で、営業時間を延長するスーパーもあり、需要が伸びない中で競争が激化している。また、大手企業は景気が回復しているが、地元の事業所には波及していない。
	商店街代表者	地元の雰囲気明るく感じられる。
	スーパー	顧客に何をPRするかにより、売上高が大きく左右される。客が今何を求めているのかを五感で感じ取り、カスタマーサービスを心がければ固定客が増加すると思われる。
	スーパー	料飲店、特に酒を扱っている店の客が増加しており、仕入れの量も増加している。
	小売業(酒類)	夏休みは終わったが、運動会や行楽のシーズンとなり、週末の集客力がかなり上昇している。
	スーパー	近隣の食品スーパーが9月いっぱい閉店するとの情報がある。
	自動車販売店	秋の商戦に向け、少し活気づいているように感じられる。
	専門スーパー	大型ショッピングセンターが郊外に進出するため、町内の小売店はさらに売上げが減少すると思われる。
	書店	路面店の景気はますます悪くなっていくと思われる。
	スナック	車の通行量がだいぶ少ないように感じられる。
	小売業(菓子販売店)	近々郊外に大型スーパーが開店予定である一方で、旧商店街は店主の高齢化が目立っており、今後ますます閉店する店が増加すると思われる。
	タクシー運転手	企業の利用が減少している。
	洋食食堂	客は自分にとって好いもの・必要なもの・興味のあるものには無条件で金を出す。客にとって都合の良い商品を考え、商品化することが大切なことだと思われる。
	割烹料理店	日本料理は一般食堂(洋食店を含む)などと比べ単価に差があり、今夏は台風の影響で一般魚の価格が高かったため、ウインドウを見ただけで帰る人が増加した。
	パチンコ店	新規店舗、既存店舗とも稼働数が一割程度低下しており、パチンコ業界全体に厳しい状況が見られる。
	日本料理店	もっと道徳心を持たなければ景気は良くならないのではないかとと思われる。
	クリーニング店	外国人労働者の数が少し増加したように思われる。
	住宅販売会社	高くても良いものが選ばれる傾向にある。以前よりローコストメーカーとの競合が減少したような気がする。
	住宅販売会社	20代後半～30代までは住宅購入に高い意欲を持っているようだが、それ以外の年代、特に40代半ば以降は将来に対する不安を強く持っており、住宅計画(特にローンを組むこと)はできないとの意見が多く聞かれる。
ドライブイン	猛暑のためスイカやメロンなどのフルーツや、冷たい食べ物・飲み物がよく売れた。	
企業関連	農業関係者	米価の落込みで生産者は打撃を受けている。
	製造業(印刷業)	業種によっては良くなってきている取引先もあるようである。
	製造業(窯業・土石製品)	地元の大手企業の新設備が9月末に稼働となるため、関係企業の経営環境に変化があると思われる。
	製造業(食品)	原油価格の高騰により、石油製品が値上がりしている。
	製造業(電気機械器具)	鉄鋼業界ではかなり業績がアップした会社がある。また、不動産関係者からも以前に比べてだいぶ不動産に動きが見られるようになってきたという話が聞かれる。
	製造業(飼料製造)	原油価格の高騰が収まらないが、大部分の生産原材料の価格は下落してきているため、影響は軽微に留まる見込みである。
	製造業(化学工業)	投資が上向きになってきたが、研究や開発に関するものが主である。
	非製造業(住宅設備施工業)	仕事のあるところとないところがはっきりしてきている。
	非製造業(輸送業)	スポット的な仕事ではなく、将来を見据えたアクセス、保管管理、情報提供、デリバリー、時節に見合う単価設定等、総合的なサービスの実行力が問われる時代に变化してきていると思われる。また、健康に関するものや趣味には金を使う傾向が見られる。景気の問題があっても、生活レベルが向上しているのは確かである。
	非製造業(金融業)	雇用等の面で将来に対する不安があるため、また、消費税の総額表示は値上がりしたような印象を与えるため、消費が拡大するとは考えにくい。
	非製造業(保険業)	税金、年金、健康保険、学校給食費等の滞納者が少しずつ増加している。
	非製造業(不動産業)	住宅地や業務用地を希望するユーザーが、土地価格の底値を感じているようである。
	雇用関連	民間職業紹介業
学校就業関係者		近所のスーパーが9月いっぱい閉店する予定である。
求人開拓員		求人情報は増加傾向にあるが、求職者の希望するものが少ない。また、厳しい労働条件のものが多く、雇用環境は改善していないと思われる。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	商店街代表者	米の価格が安い。
	スーパー	客は必要なもの以外は買わず、買物に対してシビアになっている。また、些細なことでも電話や来店でのクレームが増加している。
	スーパー	残暑が厳しく、秋物商品（特に和日配部門）の動きが悪い。
	スーパー	買うものをメモしてくる客が多く、店の使い分けを徹底してきている。ひとつの店で全部買うことはなく、5円～10円安いもののために手間を惜しまず複数店舗を渡り歩く傾向にある。
	コンビニエンスストア	1人当たりの買上点数及び客単価はマイナスになっており、余計な物は購入しない傾向が見られる。
	農産物直売所	記録的な猛暑により7月～8月前半の客の動きが鈍かった。
	農産物直売所	客は自分が購入したい商品だけを購入している。
	専門スーパー	年配の客が多いが、年金や老後に不安を持っている人が多く見られる。
	ガソリンスタンド	ここ2～3か月間、昼間の仕事の他に24時間営業のサービスステーションの夜勤アルバイトを希望する人が多い（特に工場関係者）。
	小売業（各種食料品）	客はまだまだ無駄なものを購入しない傾向が強い。
	洋食食堂	異業種交流会のメンバーと無料のイベントを開催したところ、例年になく大盛況であった。利益の伴う事業ではないが、各種売店も好調であった。機会さえあれば人々も集まるし財布のヒモも緩くなるように思われる。
	洋食食堂	近隣の飲食店では、家族が外に働きに出るところも増えている。
	寿司店	これから先、寿司屋は個性を出していかないと経営が難しくなると思われる。
	和食食堂	地元ではつくばエクスプレスの影響でどんどん企業や飲食店が進出してきている。それに伴い交通や住環境も変わってきていると思われる。
	都市型ホテル	道交法の改正以来、ピアガーデンの売上げは低迷していたが、今夏は企業、個人とも多くの予約があった。やはり暑い時期は暑くないと景気の動向も左右されると感じた。
	旅行代理店	温泉の偽装表示問題がマスコミで取り上げられたことで、客からの質問や確認作業が増加している。また、安い宿泊プランは、かなり先の方まで予約が入ることが多い。
	タクシー運転手	地元駅付近の個人商店が閉店し取り壊され空地となったが、そのほとんどが有料駐車場と化している。
	タクシー運転手	タクシーは利用せず、マイカーによる送迎が多い。
	タクシー運転手	大手企業もタクシーチケットを利用しなくなってきた。
	ゴルフ場	船舶輸送の関連企業の好況ぶりが目立つが、総じて一時のような不況感脱したと思われ
ゴルフ場	今月は接客業にとって際立った変化のない月である。	
パチンコ店	新築のマンションやアパートが数件できたため、ある程度の人口の増加が見込まれる。	
理・美容店	景気云々よりも人間性や人財を考える時ではないかと思われる。一人一人がアーティストとしての誇りを持ち技術・接客・人間性を意識することが結果的に数字につながるものであり、それが一番大切なことであると思われる。	
企業関連	農業関係者	I T関連等と製造業等で大きな隔たり（勝ち組と負け組の乖離）ができていくように感じられる。
	製造業（食品）	納品先が増加しても売上げはほとんど変わらない。人口増がない限り売上増は見込めない
	製造業（食品）	近隣で企業の破綻があった。今後他の企業でも破綻が予想される。
	製造業（窯業・土石製品）	企業には重油、個人にはガソリンの値上げが大きく響いてくると思われる。
	製造業（金属製品）	得意先を1社に依存しているため、採算割れした部品でも製造を続けざるを得ず、赤字に苦しんでいる。同業他社や地元の同じ下請他社も同じ状態である。
	非製造業（建設業）	紹介による問合せが多い。9月中旬以降注文の引合いが殺到している。9～10月で年間売上目標の半分程度を達成できそうである。
	非製造業（建設業）	ゴルフ場の値下げ競争が激しい。また、若い人のプレーが少ないように思われる。ゴルフ場は定年後の人をターゲットにしているようである。
	非製造業（建設業）	すべての業種で価格が低下しており、高い物は購入されない。今までの商売のやり方では客が来ないため、各業種四苦八苦しているように思われる。
	非製造業（不動産業）	「売れるところ」と「売れないところ」の二極化が見られる。
	非製造業（金融業）	つくばエクスプレス駅周辺のマンションは完売状態である。
雇用関連	人材派遣業	好・不況のサイクルのスピードが著しい。既にピークを過ぎ業務の転換を迫られているメーカーもある。一方、社会全体では「好景気」と言われているせいか、同業者が各地に進出し増加する傾向にあるようである。
	求人広告	求人広告の掲載枠が大きくなってきている。
	学校就業関係者	ガソリンの値上げは毎日車で通勤している人にとっては負担である。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	商店街代表者	客から仕事が忙しくなってきたとの声が多く聞かれており、都市部からは多少遅れるかもしれないが、少しずつ景気は良くなるように思われる。
	スーパー	行政や民間から求人情報の提供を求める動きが活発化しており、求職者の返答も早いことから、まだまだ雇用をめぐる問題は大きいと思われる。
	スーパー	商品を購入するときの基準が大きく変化しており、自分で価値を認めた商品に対してはいくらでも金を出す傾向が顕著に見られる。
	自動車販売店	近隣のスーパーが閉店した。
	専門スーパー	冬場の燃料関係の値上がりが気がかりである。
	ガソリンスタンド	灯油の値上がりが今まで経験したことがないくらい急速である。今後極端に寒い冬となった場合、一般消費者に相当な影響が出て、景気を悪化させることになりかねない。
	洋食食堂	市町村の合併問題に対して、合併が進めば各方面に需要が増加し景気が良くなるとの話を耳にするが、共感できる。
	寿司店	少子高齢化に伴い、介護関係やセレモニー関係などの高齢化事業が増加している。
	一般食堂	現在も工業団地内にて工場の転売が続いている。
	都市型ホテル	企業や業種によってかなり差が出てきていると思われる。金融機関が安定してくれば、世の中に安心感が出てきて景気も良くなると思われる。
	旅行代理店	商店等の廃業、移転等も落ち着いてきたように思われる。
	タクシー運転手	景気の良い話が聞かれず、気持ちが落ち込むことが多い。
	タクシー運転手	駅前にあった大手のスーパーが7月末で撤退したが、その跡地に新しいスーパーがオープンする予定であり、駅前が活気づくことが期待できる。
	タクシー運転手	昼夜ともに街中に活気が感じられない。上向くでもなく悪化するでもなく、何かダラダラした気だるい空気が流れている。職種柄気を張って集中力を保たなければならないためつら
	ドライブイン	市町村合併が話題になっているが、企業や個人にとってのメリットがまったく見えてこない。また、景気が良くなる話題がメディアの報道でも少ない気がする。
	ゴルフ場	今年は台風の上陸が多く、10月までは心配である。
	レジャー施設	アテネオリンピックに関連し、大型テレビ関係、各選手が飲用していたドリンクや履いていたシューズなどの便乗商戦グッズの販売が伸びており、各企業の戦略が国民をうまく刺激していると感じられる。
	理・美容店	忙しい店とそうでない店の格差がだんだん出てきたように感じられる。
	理・美容店	地元を中心市街地や商店街に空地が多くなり、そのほとんどが駐車場となっている。家屋が建つ様子もなく、人口の増加が見込まれない。
	クリーニング店	若者の来店が少ない。
建築設計事務所	個人も事業主も経費節減を第一にしている。車も軽自動車に買い換えるという話をよく耳にする。	
企業関連	農業関係者	若年層の就職難が続いており、景気回復の遅れが実感される。
	製造業（食品）	販売実績が伸び悩んでいるため、社内に「儉約令」が出された。
	製造業（印刷業）	一生懸命頑張ればなんとかなる時代ではなくなった。昨年知人の経営する塗料・染料販売店が閉店したが、同じ立場になりかねない予備軍が多数いる。また、最近の犯罪の増加は、不景気と何らかの関係があると思われる。
	製造業（石材業）	社会保険をやめて国民健康保険に切替える同業者が目立つ。また、全般的に契約・派遣社員の募集が増加している。
	製造業（石材業）	資材、原材料の値上げを製品価格に転嫁できず頭が痛い。競売、倒産、自己破産などの話を多く耳にする。
	製造業（一般機械器具）	仕事はあるが納期に追われて困っている。また、受注単価が安い。
	製造業（印刷業）	米の買入価格が昨年より20～30%安くなっているようであり、その影響が懸念される。
	非製造業（建設業）	一部の大手企業では景気が少しずつ回復していると言われているが、リストラ等によるところが大きく、実質的な回復かどうかは疑問である。
	非製造業（不動産業）	県内の地価は下落しているが、都市部では一部上昇しており、いずれその傾向が地方にも見られるようになると思われる。
	非製造業（広告業）	価格だけでなく中味でも勝負しようとしている企業は商品の良さを客に必死にアピールしようとしており、活気が感じられる。やはりキーワードは「オンリーワン」なのだと思う
雇用関連	人材派遣業	最近建築関係の工場が忙しいようである。
	求人広告	求人募集をする企業のほとんどが自社雇用ではなくアウトソーシングに移行しつつある。しかしながら、県西地域は過疎化が進んでおり、人集めにはどこも苦労しているようである。
	公共職業安定所	製造業等で製造・販売部門の中国等へのシフトが見られる。請負等アウトソーシングも増加しており、事業所側のコスト意識の高さが伺える。また、鉄鋼・原油価格の高騰など景気のマイナス要因が増加しているように思われる。
	学校就業関係者	製造業者の設備投資が活発になってきている。
	求人開拓員	ガソリンの値上げにより商品価格が年末に向かって上昇すると思われる。